

浦幌町立博物館

年報

第13号



Historical Museum of Urahoro

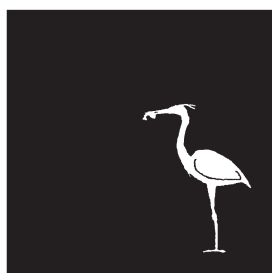
2012

11

浦幌町立博物館

年報

第13号



Historical Museum of Urahoro

2012

11

序

『浦幌町立博物館年報』第13号をお届けします。本書は、2011（平成23）年度における本館の活動状況を取りまとめたものです。平成23年度は、開館以来、初めて一部リニューアルが行われアロデスミスやウラホロシンカイヒバリガイ化石等の展示ブースを設けることができました。合わせて、新たな企画展や本町の自然・文化財を素材とした学校支援活動や移動講座等、今までとは視点を変えた各種事業を展開して参りました。それぞれの事業内容につきましては、本書をご一読していただければ幸いに存じます。本館におきましては、充実した1年であったと考えております。

博物館は、地域の歴史や文化、自然など共有の財産の保護、活用を図り、これらに関する調査研究を通じて、生涯学習の場として町民の皆様へ情報を提供して、長い年月にわたって築き上げられた貴重な財産を次の世代に引き継ぎ、伝えていくことが大きな役割と考えております。

しかしながら、地方自治をとりまく環境は一段と厳しく、本町におきましても厳しい財政事情となっております。学芸員の配置や入館者数の伸び悩みなど、解決しなければならない課題はありますが、地域や学校等と連携し、郷土の魅力を再認識していただけるよう町民の皆様により親しまれる博物館活動を展開して参りたいと思います。

最後になりましたが、本館の管理運営に種々ご指導頂きました町民の皆様をはじめ、博物館協議会委員、各種講座の講師の方々、並びに貴重な資料を提供して頂きました皆様、企画展、各種講座等に足を運んで下さった多くの皆様に深く感謝を申し上げます、序といたします。

2012年11月

浦幌町立博物館長 佐 藤 芳 雄

● 本文目次

序	i
目次	ii
I. 施設の概要	1
II. 常設展示構成	2
III. 資料の受け入れ	13
(1) 受贈資料	13
(2) 採集資料	14
(3) 受贈図書資料	15
IV. 資料の提供	22
V. 博物館の事業	24
VI. レファレンス業務	38
VII. 博物館ボランティア	38
VIII. 博物館日誌(抄)	39
IX. 博物館の利用状況	44
X. 博物館の組織	45
XI. 博物館活動のマスコミ報道	46
XII. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程	70
XIII. 平成23年度予算	82

● 写真目次

PL. 1 東日本大震災 浦幌津波被害写真展	28
PL. 2 東日本大震災 浦幌津波被害写真展	28
PL. 3 ウラホロイチゲ観察会	28
PL. 4 端午の節句写真撮影会	29
PL. 5 ロビーコンサート	29
PL. 6 初心者透明水彩画教室	29
PL. 7 矢内万喜男写真展	30
PL. 8 懐かしき昭和の生活回顧展	30
PL. 9 世代間文化交流…琴音の中で野点を楽しむ	30
PL.10 夏休み子ども考古学教室	31
PL.11 流しそうめん体験	31
PL.12 真夏の残像展…戦争体験を伝える	31
PL.13 K/T境界層見学会	32
PL.14 ナイト・ミュージアム	32
PL.15 史跡見学会	32
PL.16 浦幌小学校4学年総合学習	33
PL.17 開拓当時の食事体験	33
PL.18 秋の渡り鳥観察会	33
PL.19 初心者アイヌ文様刺繍	34
PL.20 ヒグマの生態を探る	34
PL.21 アイヌ文様刺繍展示会	34
PL.22 初心者アイヌ彫刻教室	35
PL.23 ニコルロビーコンサート	35
PL.24 化石のレプリカづくり	35
PL.25 恐竜折り紙づくり教室	36
PL.26 2012年「年賀状展」	36
PL.27 ひなまつり写真撮影会	36
PL.28 デスモスチルス全身骨格展	37
PL.29 ヒグマの生態を探る講座	37

● 図版目次

Fig. 1 常設展示ゾーニング図	5
Fig. 2 ヒグマシンボル図	5
Fig. 3 K-T境界	6
Fig. 4 十勝川下流域の地質時代史	6
Fig. 5 北海道の初期の土器文化	7
Fig. 6 シベリアから来た石刃鎌文化	7
Fig. 7 十勝太若月遺跡土坑墓配置図	8
Fig. 8 縄文文化と墓	8
Fig. 9 擦文ムラと住居	9
Fig. 10 擦文文化の鉄と農耕	9
Fig. 11 いろいろな土器	10
Fig. 12 いろいろな石器	10
Fig. 13 チャシ	11
Fig. 14 送り場	11
Fig. 15 トカチの成立とトカチ場所	12
Fig. 16 オヘチコカシ村の成立と初期の開墾	12

I. 施設の概要

名 称 浦幌町立博物館 (英文表記 Historical Museum of Urahoro)

所 在 地 〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地 1

電 話 015-576-2009 (直通) 015-576-2111 (代) 内線542

ファックス 015-576-2452

ホームページアドレス

<http://www.urahoro-kyouiku.jp>

メールアドレス

museum@urahoro.jp

建 物 構 造 鉄筋コンクリート造・地上2階建 最高の高さ 10.45m (最高軒高 9.70m)

総 工 費 983,514千円 (備品購入費を含む)

敷地面積 4,575.907㎡

建築面積 1,804.34㎡

延床面積 2,542.17㎡ (1階:1,518.48㎡ 2階:1,023.69㎡)

博物館単独スペース

常設展示室	378.56㎡
学芸員室	45.50㎡
整理室	78.40㎡
写真室	19.50㎡
収蔵庫	71.50㎡
計	593.46㎡

博物館・図書館・教育委員会事務局共有スペース

視聴覚室	172.90㎡
調整室	19.98㎡
キッズルーム	7.29㎡
1階ホール	182.17㎡
2階ホール	166.50㎡
会議室	63.00㎡
書庫	29.75㎡
機械室	31.08㎡
休憩室	11.55㎡
計	684.22㎡

駐 車 場 正面 普通乗用車用 23台分 (うち身体障害者用 2台分)

裏面 普通乗用車用 19台分

計 42台分

開館時間 午前10時～午後5時

休 館 日 月曜日 (月曜日が国民の休日の場合は翌日)・国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く・年末年始・その他館長が認めた日

入 館 料 無料

交 通 ・J R根室線浦幌駅下車 徒歩5分
・とち帯広空港から車で約60分

施設設備 エレベーター 1基
車椅子 2台

常設展示室設備

プロローグ音響システム

I. 施設の概要

アオサギ営巣地ジオラマ音響システム

DVDによる100インチ映像システム

浦幌町の概要紹介（町の概要・町の花鳥木・産業・イベント・文化・歴史）

5つのエリア（上浦幌・中浦幌・市街地・下浦幌・東部地区）

施設紹介メインマップ

映像情報メニュー（遺跡探検・浦幌川河口から源流まで・野鳥観察・浦幌の四季）

ポイント情報メニュー（自然観察・先史遺跡・チャシ跡観察ポイント）

DVD映像システム（うらほろの歴史・十勝ゆかりの人々・地図でたどるうらほろ）

開拓獅子舞音響システム

II. 常設展示構成

博物館の常設展示は、次の6コーナーで構成されている。

I. 自然からのメッセージ（プロローグ）

II. アオサギの世界

III. 十勝・浦幌の自然誌

IV. 石器と土器の文化

V. アイヌの暮らし

VI. 十勝・浦幌のあゆみ

これらのコーナーはそれぞれ、次のような展示から構成される。

I	1	魚	ヤマメ、イワナ、フクドジョウ、イバラトミヨ、ハナカジカ、イトウ、チョウザメ
	2	昆虫	
	3	鳥	オオヒシクイ、ノスリタカ、クマゲラ、キレンジャク、ヤマセミ、オオルリ、アマサギ、カワアイサ②
	4	花	ウラボロイチゲ
II	1	アオサギの世界	アオサギジオラマ展示、採捕中のアオサギ、飛行中のアオサギ
	2	浦幌町の自然	月別平均気温と雨量、浦幌の四季
	3	鳥類個体展示	エゾフクロウ、オオコノハズク、コノハズク、クマタカ、カケス、アカショウビン、コルリ、メジロ、センダイムシクイ、ツミタカ、チゴハヤブサ、エゾライチョウ♂、エゾライチョウ♀、マガモ、コガモ、オシドリ、オオワシ②
III	1	デジタルマップ100インチ映像システム	(1) 浦幌町の概要紹介〔町の概要、町の花・鳥・木、町の産業、祭り、文化など〕 (2) 5つのエリア〔上浦幌地区・中浦幌地区・市街地・下浦幌地区・東部地区〕 (3) 施設紹介メインマップ〔メインマップ、マップのズームアップ、市街地マップ、施設情報〕

III	1	デジタルマップ100インチ映像システム	(4) 映像情報メニュー〔遺跡探検、浦幌川－河口から源流まで、野鳥観察、浦幌の四季〕 (5) ポイント情報メニュー〔自然観察ポイント、先史遺跡ポイント、チャシ跡観察ポイント〕
	2	十勝川下流域の地質時代史	十勝川下流域の河岸段丘
	3	十勝川下流域の地質時代史	K - T境界、デスモスチルス想像図、デスモスチルス臼歯化石③、シンカイヒバリガイ化石、アロデスミス化石（レプリカ）
IV	1	発掘の様子	発掘前、測量、表土の剥ぎ取り、発掘、住居跡覆土採取用メッシュ、住居跡の発掘、地層の図面づくり、出土した土器、固形剤塗り、住居床面の土の採取、住居跡全景、実測、土の天日乾燥、極小品の選別②、ラジコンヘリコプターによる空中撮影・整理・水洗い、図面づくり、報告書の完成
	2	十勝太若月遺跡土坑墓	土坑墓ジオラマ展示
	3	北海道の先史文化のうつりかわり	図入り年表
	4	北海道の初期の土器文化	研究のはじめ、尖底土器と平底土器、河野広道、澤四郎、テンネル・晩式土器群、下頃辺式土器
	5	シベリアから来た石刃鏃文化	研究のはじめ、北海道の石刃鏃文化遺跡、シベリアの石刃鏃文化遺跡、斎藤米太郎、名取武光、浦幌式土器、石刃鏃、石核、石錐、搔器、削器、石刃槍、彫器、石錘、砥石、敲石、石斧
	6	縄文文化と墓	縄文文化と十勝太若月遺跡、墓の大きさ比べ、土坑墓52の配置図、十勝太若月遺跡の土坑墓、縄文時代前期の土器、後北CⅠ式土器、コハク製玉類、ガラス小玉、砥石、銚先
	7	擦文ムラと住居	住居と生活用具、十勝の擦文文化遺跡、擦文文化の遺跡分布、十勝太若月遺跡、十勝太地区の擦文住居跡分布、擦文住居の復元図、擦文土器、柱、木器、紡錘車
	8	擦文文化の鉄と農耕	鉄と農耕の普及、全道各地出土の鍬の羽口、擦文時代の植物栽培図、鉄斧、刀子、鉄滓、オオムギ・キビ・シソの炭化種子、オニグルミ堅果
	9	いろいろな土器	縄文文化と土器、作り方、形、文様、変遷
	10	いろいろな石器	石器の材料、作り方、黒曜石原材産地、使い方
	11	十勝の著名遺跡	八千代A遺跡、下大樹遺跡、十勝ホロカヤントー堅穴群、ユクエピラチャシ跡、広尾仙台藩陣屋跡
	12	土器の個体展示	縄文土器⑥、縄文土器⑥、擦文土器⑥
V	1	アイヌの暮らし	アイヌ酒宴の図、マレク漁の図、蝦夷島奇観
	2	チャシ	史跡オタフンベチャシ跡、礼文内神社チャシ跡、アツナイチャシ跡、チプネオコッペチャシ跡、十勝川口チャシ跡、十勝太Dチャシ跡、旅来チャシ跡、安骨チャシ跡、霧止山チャシ跡、帯富チャシ跡、稲穂チャシ跡
	3	伝製品	シントコ③、イタ、ニンカリ、イクパスイ③、タマサイ③、ツキ、バッチ、エムシ
	4	送り場	十勝太海岸段丘遺跡出土品

II. 常設展示構成

VI	1	トカチの成立とトカチ場所	正保日本図、トカチ場所の主な産物、松浦武四郎、最上徳内、近藤重蔵、トカチ御場所山川沼地名里数粗絵図扣
	2	オヘチコカシ村の成立と初期の開墾	7郡51ヶ村のうつりかわり、殖民地区画作業、河合牧場、岐阜農場、開墾風景、サケ漁、斎藤漁場
	3	新しいムラづくり	下浦幌市街都市計画図、明治43年主要市街地戸数人口、戸長役場、浦幌駅開業、第一浦幌尋常小学校と養老尋常小学校との連合運動会、黒岩農場、斎藤牧場
	4	新しいマチづくり	昭和27年十勝沖大震災で震度7を記録、昭和24年ころの市街大通り、開村50年記念乳牛共進会、校内マラソン、昭和35年チリ地震による津波の被害、森永乳業、ロランC局、市街商店街、開町70年記念パレード、十勝バス運行風景
	5	着る	蓑、くけ台、ミシン、火のし、ハンドバッグ、開墾たび、アイロン、バスケット、深わら靴
	6	食べる	膳、櫃、食器、木鉢、砂糖入れ、重ね鉢、弁当箱、石臼、壺、鉄びん、カツオ削り器、野菜削りカンナ
	7	住む	ローソク立て、自在鍵、石油ランプ、柱時計、手下げランプ、ネズミ捕り、電気アンカ、薬箱
	8	農	亜麻播種器、一斗杵、からさお、風呂鍬、窓鍬、平鍬、豆播種器
	9	林	トビ、村田銃、ガンタ、サッティ、刃広、くさび、杙打ち用具、窓鋸、天王寺鋸
	10	鋤	キャップランプ、革手袋、ベルト、ガス自動警報器、測風器微風計、工類表入れ、工類表、安全靴、携帯用ガス警報器、風測計、携帯用坑内誘導無線機、カンテラ、一酸化炭素検知管、救命器
	11	浦幌開拓獅子舞	住吉神社と加賀団体開拓記念碑、浦幌開拓獅子舞、浦幌開拓獅子舞の獅子頭、稲穂獅子舞の獅子頭、初期の浦幌開拓獅子舞の姿、浦幌開拓獅子舞おはやしの音響
	12	生活資料ディスプレイ	ラジオ、選択バサミ、算盤、下駄、かんじき、ノンコ、SPレコード盤、藁靴の型、提灯用箱、湯たんぽ、壁付け式電話
	13	37インチ映像コーナー	うらほろの歴史、十勝ゆかりの人々、地図でたどるうらほろ

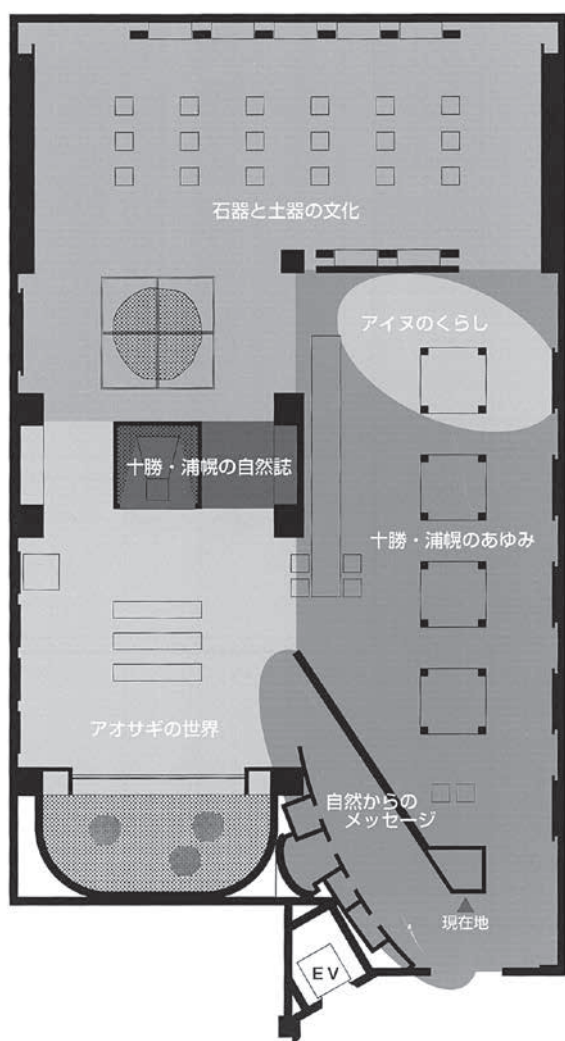


Fig.1 常設展示ゾーニング図



Fig.2 ヒグマ シンボル図

K-T境界

Discoveries of anomalously high Ir concentraions K-T boundary sediments

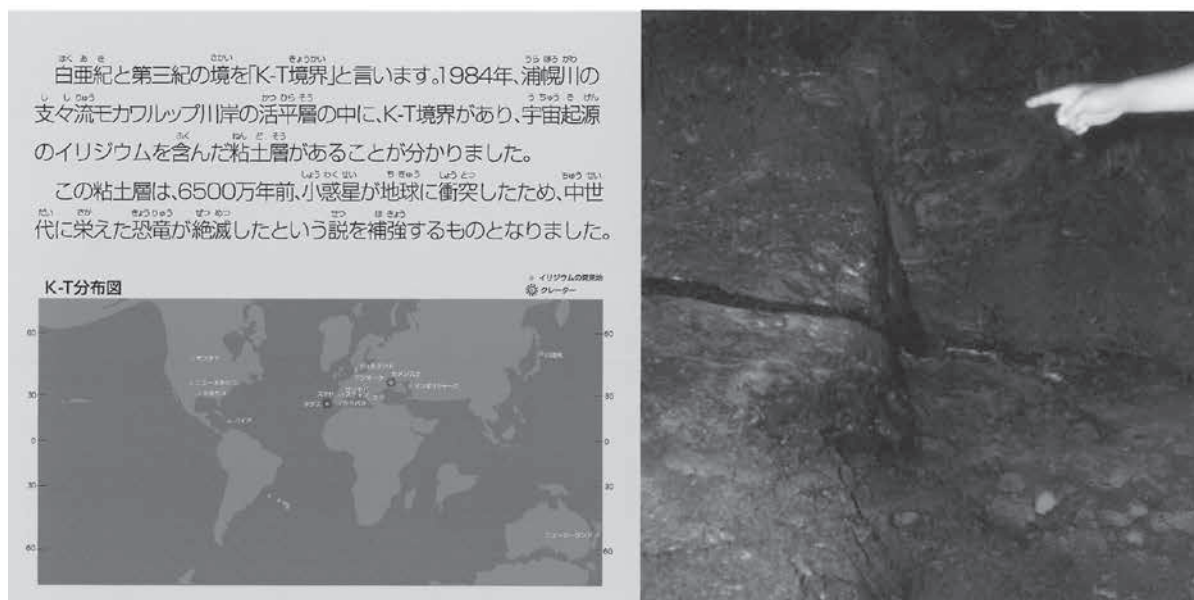


Fig.3 K - T境界

十勝川下流域の地質時代史

Geologic age in the region of the lower course of the Tokachi River

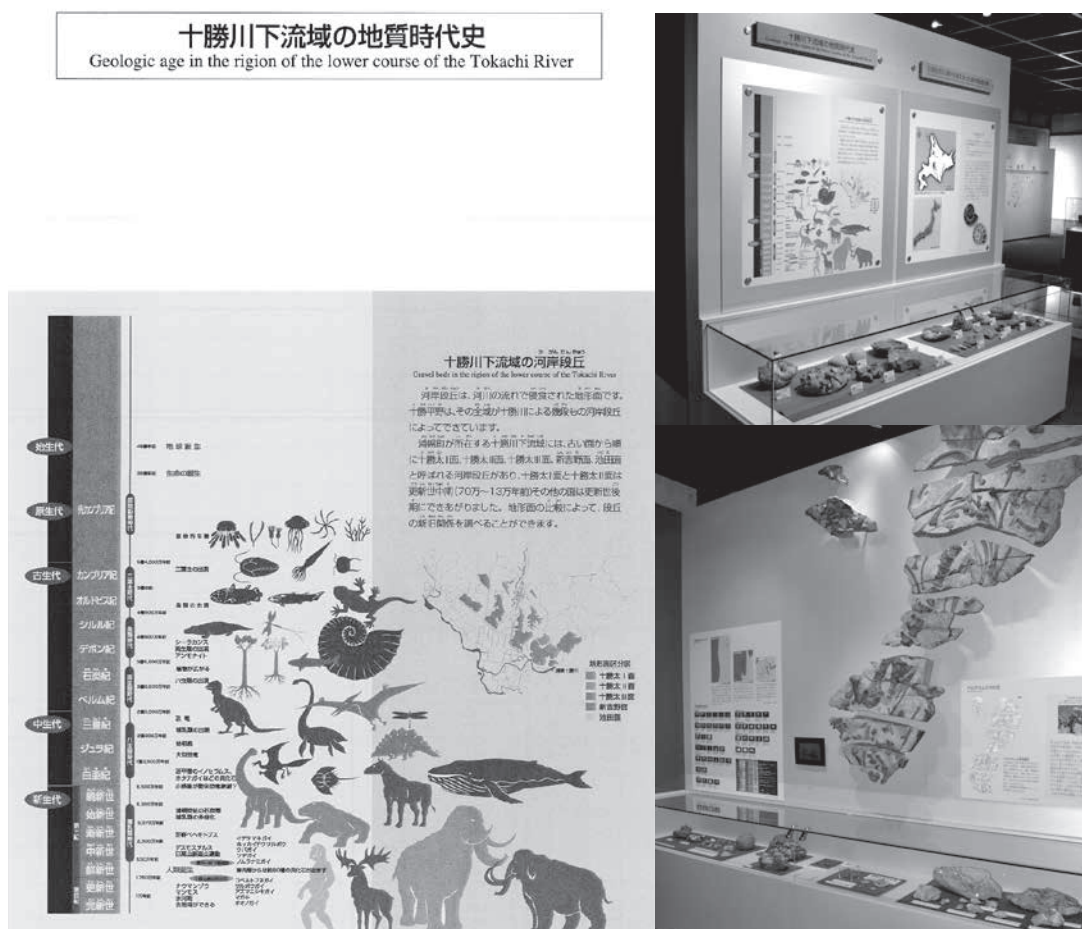


Fig.4 十勝川下流域の地質時代史

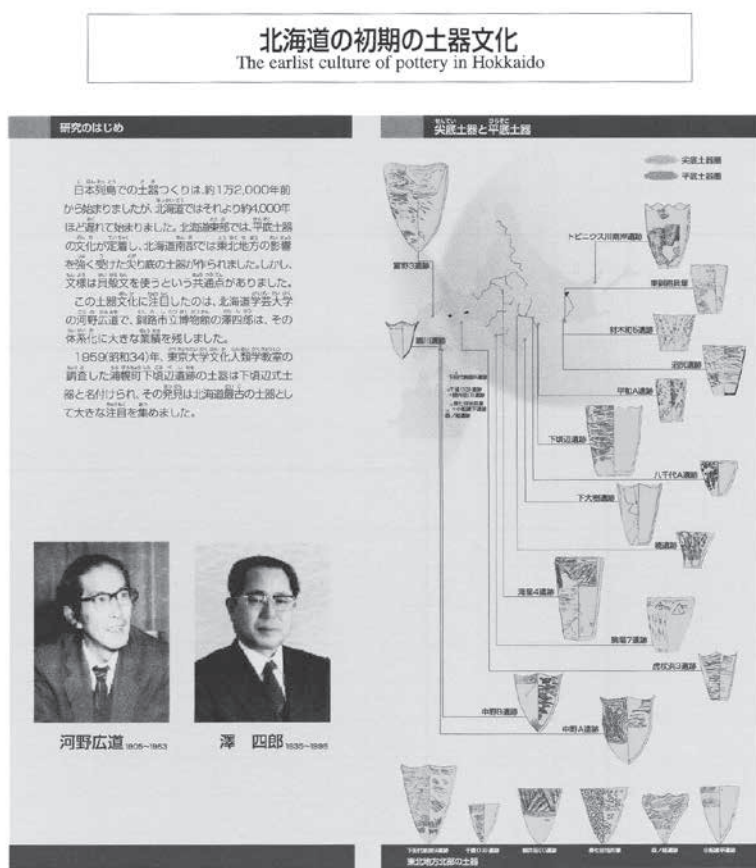


Fig.5 北海道の初期の土器文化

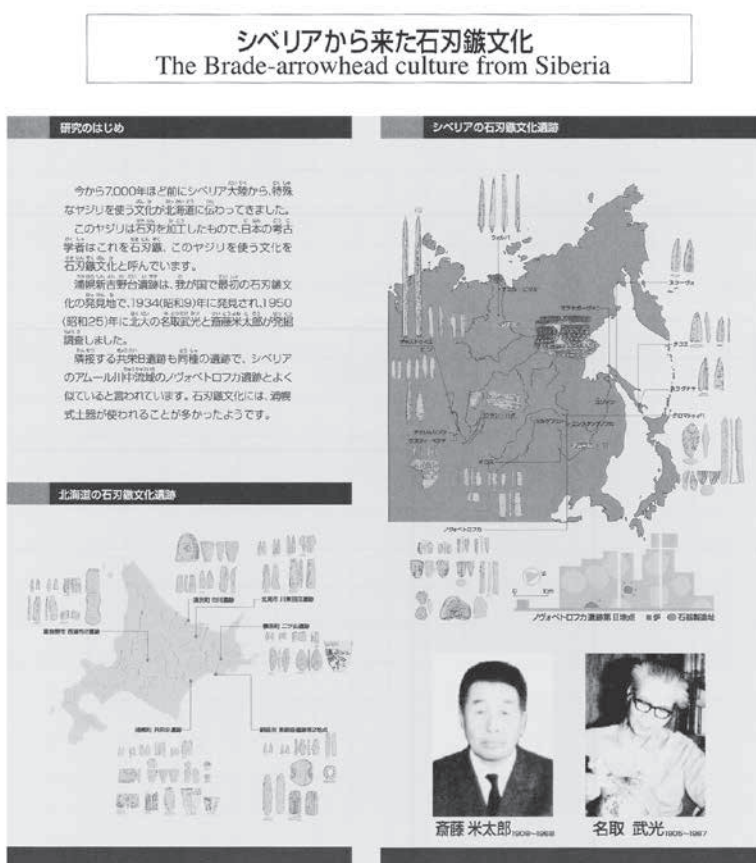


Fig.6 シベリアから来た石刃鎌文化

II. 常設展示構成

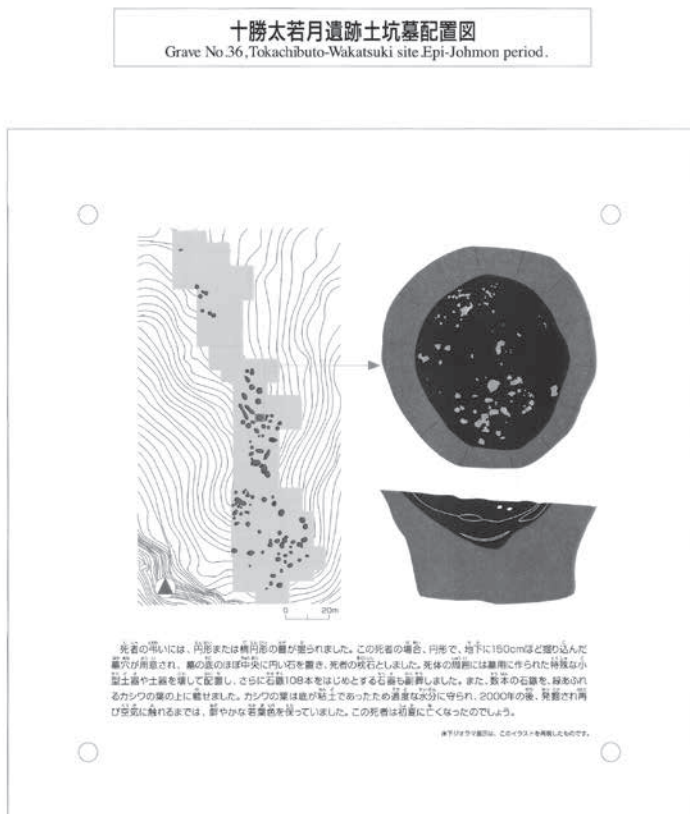


Fig.7 十勝太若月遺跡土坑墓配置図



Fig.8 続縄文文化と墓



Fig.9 擦文ムラと住居



Fig.10 擦文文化の鉄と農耕

いろいろな土器 Potteries

縄文文化と土器

日本の縄文文化は、日本列島全域に及び、用途に応じてさまざまな形の土器が作られ、資料保存・資源などに使われていました。

縄文文化の「縄文」は、土器の表面に付けられた「縄目」の文様にもなっており、付けられた名前ですが、1万年もの間には、貝殻や棒で付けられた文様も見ることができず、土器は、煮炊き、資料保存、資源などに使われていたが、考古学では土器を、時代を決定する目安としています。

土器づくりの文化は、北海道では縄文文化に始まり、新縄文文化、弥生文化にまで引き継がれ、その一部は縄文文化が続いても続きました。

土器の作り方

土器の形

土器の模様

いろいろな石器 Stone tools

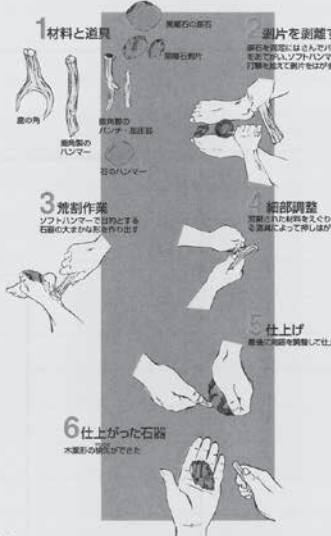
石の材料

土器とともにたくさん使われたのは石版です。北海道では黒曜石を原料とすることが多いのですが、興亜やチャートが採れる地域もあります。黒曜石は割くて、磨かやすい性質があり、ヤシリ、石槌、投槍、石鏃などが作られました。また、オンは緑閃石、七瀬には安山岩や安山岩などがお好んで使われました。



石製の作り方

- 1 材料と道具**
鹿の角、鹿角型のハンマー、黒曜石の原石、磨き石、石製のハンマー、石製のナイフ
- 2 削片を剥離する**
削片を両手にはさんでパンチを動かしてソフトハンマーで打撃を加えて削片をはく
- 3 荒製作業**
ソフトハンマーで粗削りする。石版の大きさや形状を決める
- 4 細部調整**
指先などで材料を整える。必要に応じて削片をはく
- 5 仕上げ**
最後に油磨きや研磨剤で仕上げる
- 6 仕上がった石器**
木炭粉の塗布ができた



黒曜石産地





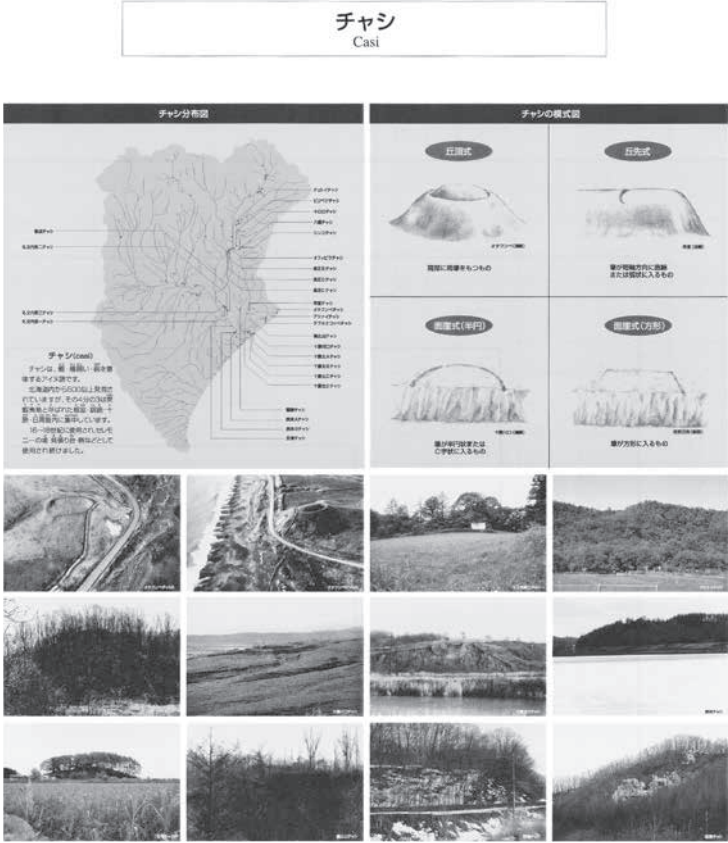


Fig.13 チャシ

送り場
funerary site and that surroundings

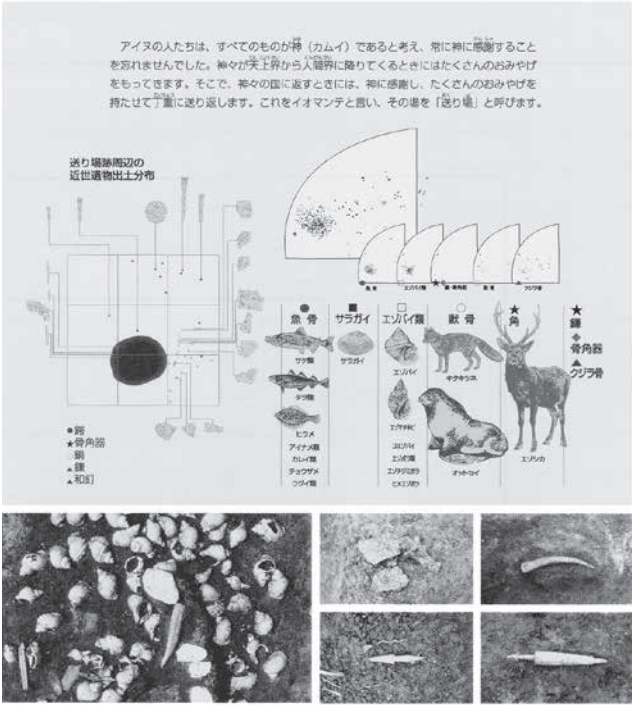


Fig.14 送り場

II. 常設展示構成

トカチの成立とトカチ場所

Appearance of Tokachi and Tokachi trading post



Fig.15 トカチの成立とトカチ場所

オヘチコカシ村の成立と初期の開墾

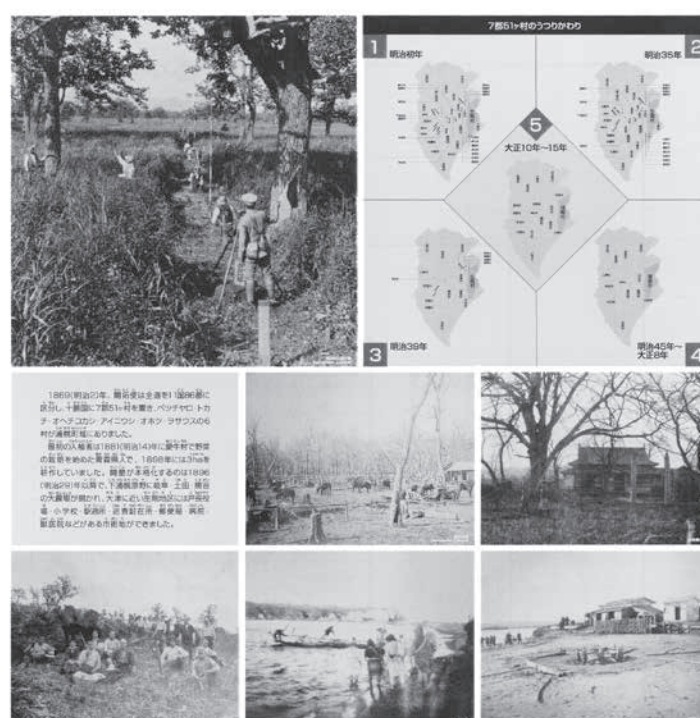


Fig.16 オヘチコカシ村の成立と初期の開墾

Ⅲ. 資料の受け入れ

(1) 受贈資料

月 日	氏 名	住 所	品 名	数量
5・11	川 田 秀 幸	北 町	スピーカー2、アンプ、レコードプレーヤー	3
7・26	吉 田 裕 明	北 町	軍隊手帳、暁金國庫債券、戦時郵便貯金切手金貳圓、戦死通告書、竿秤、保険証券、腰差しタバコ入れ、マント、羽釜、軍人遺族記章、他116	126
7・26	円 子 紳 一	帯 富	写真	17
9・26	岩 瀬 健 一	北 町	音盤	69
9・26	浦幌町教育委員会	桜 町	私北学校、親展書綴、役場ガイド、他6	9
9・26	佐 藤 喜 和	神 奈 川 県	卒業論文	2
9・30	佐 藤 芳 雄	住 吉 町	浦幌町立吉野小学校閉校記念式典しおり、一般国道336号、線旅来渡船・十勝河口橋記念絵葉書、他2	4
11・28	宮 崎 一 市	吉 野	音盤	2
12・1	干 場 月 菜	桜 町	カブト	2
12・1	山 本 ひとみ	幸 町	音盤	69
12・1	円 子 紳 一	帯 富	カメラ一式	1
12・2	三 浦 直 春	住 吉 町	豆炭アンカ、ハンドル錐2	3
12・7	浦幌町産業課	桜 町	浦幌町戸別明細図	1
12・7	佐 藤 芳 雄	住 吉 町	ポータブルテレビ、計算機	2
1・15	北海道炭鉱遺産ファンクラブ	札幌市中央区	カレンダー（炭鉱遺産）	1
1・16	菅 野 イソ子	新 町	音盤39、音盤ケース、レコードクリーナー、レコードクリーナー	312
1・20	博 物 館	桜 町	カレンダー（商工会）	1
2・2	東 等 義 光	活 平	コムラサキなど10種類	41
2・26	谷 川 寿 章	帯 富	浦幌町広報、うらほろ議会だより、うらほろ役場だより、他2	5
3・4	中 村 善 一	幸 町	皇族御寫眞帖、掛軸	2
3・21	山 崎 健 司	宝 町	ひな人形1、音盤80、袋1、ソノシート2、図書1	85

Ⅲ. 資料の受け入れ

(2) 採集資料

月 日	資 料 名	数量	摘 要
9・30	うらほろ留真温泉無料バス運行表	3	浦幌町役場産業課
9・30	浦幌町第3期まちづくり計画 みんなの知恵世代を超えて創る町	1	浦幌町
9・30	第21回木村流十勝支部大正琴お ひろめ会	1	木村流十勝支部
9・30	チラシ	1	うらほろ留真温泉オープン記念植樹会参加者募集
9・30	チラシ	1	第36回みのりまつり出店者募集
9・30	チラシ	1	新「本別・浦幌生活維持路線」が運行します
9・30	チラシ	1	2011こどもまつり
9・30	チラシ	1	こどもまつり東北特産品販売コーナー
9・30	チラシ	1	うらほろ留真温泉を活用した健康セミナー開催
10・7	チラシ	1	現在のアナログ放送は7月24日で終了します
10・7	チラシ	1	You遊ナイト
10・7	チラシ	1	第4弾「うらほろプレミアム商品券」販売開始!!
10・7	チラシ	1	うらほろ和ごころ体験塾
10・7	チラシ	1	第24回全道反核平和リレー
10・20	チラシ	1	第21回ふるさとの夏まつり出場者第募集
10・20	チラシ	1	料理メニュー開発講座
10・20	チラシ	1	浦幌の特産品が人気レストランのメニューに!
10・20	チラシ	1	第36回ふるさとのみのりまつり
11・25	チラシ	1	浦幌炭碓写真展
11・25	チラシ	1	閉店セール 木谷ふとん店
11・25	チラシ	1	うらほろ商店街・食べ歩きマップ
11・25	2011・帯広百年記念館移動展 とかち野讃歌	1	帯広百年記念館運営連絡協議会
11・25	浦幌町商工会創立50周年記念式 典・祝賀会	1	浦幌町商工会
12・5	チラシ	1	第13回うらほろ物産フェア
2・2	チョウ	23	エゾスジグロシロチョウなど15種
2・2	カレンダー	1	浦幌町・浦幌町商工会

(3) 受贈図書資料

【北 海 道】

北海道環境生活部くらし安全局

道民活動文化振興課縄文世界遺産推進室

カックウと学ぶ 北の縄文世界

北海道開拓記念館

北海道開拓記念館研究紀要 第39号

北海道開拓記念館だより 211～214号

北海道開拓記念館2010 要覧

小嶋

新三・慧子コレクション資料目録

伊勢神宮と北海道

北海道立アイヌ民族文化研究センター

北海道立アイヌ民族文化研究センター年報 2010

研究紀要 第17号

アイヌ語地名を歩く

ー山田秀三の地名研究からー2011名寄

アイヌ語地名を歩く

ー山田秀三の地名研究からー2011稚内

アイヌ民族文化研究センターだより No.34～35

北海道立文学館

北海道立文学館報 第85～87号

北海道立図書館

アイヌ文学

金成マツ (DVD)

(財)北海道埋蔵文化財センター

(財)北海道埋蔵文化財センター 調査年報 24

(財)北海道埋蔵文化財センターだより 第26号

北海道博物館協会

道博協ニュース 第101～103号

平成22年度 北海道博物館協会加盟館園等現況

北海道立埋蔵文化財センター

北海道立埋蔵文化財センター年報 12

北海道大学

埋蔵文化財調査室ニュースレター 第9～11号

北海道大学埋蔵文化財調査室

北大構内の遺跡XⅧ

K39遺跡工学部共用実験研究棟地点

発掘調査報告書

北海道大学総合博物館

北海道大学総合博物館ニュース 第23号

わが街の文化遺産札幌軟石ー支笏火山の恵みー

豊平川と私たちーその生いたちと自然ー

北海道教育大学

北海道教育大学紀要 人文科学・社会科学編

第61巻 第2号

北海道教育大学紀要 人文科学・社会科学編

第62巻 第1号

北海道教育大学紀要 自然科学編

第61巻 第2号

北海学園大学

学園論集 第147～150号

開発論集 第88号

北翔大学北方圏学術情報センター

北翔大学北方圏学術情報センター年報 第3号

札幌国際大学

踊る、舞踏譜

(財)アイヌ文化振興・研究推進機構

平成23年度 財団のあらまし

平成23年度アイヌ語ラジオ講座テキスト

Vol.1～3

第15回アイヌ語弁論大会報告書 イタカンロー

アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告

第11号

平成24年度版 (財)アイヌ文化振興・

研究推進機構助成事業案内

初級アイヌ語ー幌別ー

初級アイヌ語ー千歳ー

初級アイヌ語ー美幌ー

中級アイヌ語ー幌別ー

中級アイヌ語ー千歳ー

びほろのアイヌご

ほろべつアイヌご

ちとせアイヌご

千島・樺太・北海道 アイヌのくらし

札幌市教育委員会

平成22年度 調査報告書3

C537遺跡

III. 資料の受け入れ

H 5 2 9 遺跡

C 5 4 4 遺跡

利尻町立博物館

利尻研究 第31号

北海道立旭川美術館

氷華 No.53

旭川市博物科学館

旭川市博物科学館研究報告 第2～4号

旭川市博物科学館報 Vol.2～3

星の降る里百年記念館

平成22年度版 年報 Vol.18

富良野市教育委員会

富良野の外来生物

三笠市立博物館

三笠市立博物館年報 第29号

三笠市立博物館紀要 第15号

江別市郷土資料館

江別市郷土資料館年報 Vol.10

小樽市総合博物館

小樽市総合博物館紀要 第25号

倶知安町教育委員会

倶知安風土館植物標本目録

蘭越町

北海道「蘭越町貝の館」20年のあゆみ

1991～2011

伊達市噴火湾文化研究所

北黄金2遺跡発掘調査概報

噴火湾文化 Vol.5

森町教育委員会

鷲ノ木遺跡VI

厚沢部町教育委員会

館城跡VII

館城跡VIII

市立函館博物館

市立函館博物館研究紀要 第22号

S A R A N I P No.41

縄文の至宝ー世界遺産をめざす15遺跡と土偶ー

函館市教育委員会

特別史跡五稜郭跡 復元整備事業報告書

特別史跡五稜郭跡

復元整備事業報告書（図版編）

特別史跡五稜郭跡

平成18・21・22年度復元整備事業に伴う

発掘調査報告書

北海道立函館美術館

北海道立函館美術館年報 2009～2010

収蔵作品目録〔受託作品編〕2012

収蔵作品目録〔所蔵作品編〕2012

特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化事業団

函館市 亀田中野1遺跡

函館工業高等専門学校

サハリンと千島の擦文文化の土器

えりも町郷土資料館

えりも町郷土資料館ほろいずみ

えりも町漁業振興センター水産の館

平成22年度（2010）活動報告書

えりも研究 第8号

ふるさと再発見シリーズNo.4 海の生き物たち

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

2009年度 平取町立

二風谷アイヌ文化博物館年報

北海道平取町文化的景観保護推進事業

第6年次報告書

平取町教育委員会

平取町 町有牧野第11牧区遺跡

沙流川歴史館

沙流川歴史館年報 第12号

沙流川歴史館だより No.40～43

2011特別展 沙流川流域のチャシ跡

むかわ町立穂別博物館

むかわ町立穂別博物館館報 第27号

むかわ町立穂別博物館研究報告 No.26

いしかり砂丘の風資料館

いしかり砂丘の風資料館紀要 第1巻

エスチュアリ No.43～45

千歳市教育委員会

末広2遺跡（第2次調査）

恵庭市郷土資料館

ユカンボシE11遺跡II

ユカンボシE12・E13遺跡

史跡カリンバ遺跡保存管理計画書

苫小牧市博物館
 苫小牧市博物館報 第8号
 苫小牧市博物館だより No.60

厚真町教育委員会
 オニキシベ2遺跡

層雲峡ビジターセンター
 層雲峡ビジターセンターだより No.45

北海道立北方民族博物館
 北海道立北方民族博物館研究紀要 第20号
 北海道立北方民族博物館年報 平成22年度
 北方民族博物館だより No.81～83
 現代社会と先住民文化
 ー観光、芸術から考えるー②

能取岬西岸遺跡
 ウイルタとその隣人たち

斜里町教育委員会
 朱円25遺跡・峰浜海岸1遺跡・
 ポンシュマトカリベツ1遺跡・
 峰浜8線遺跡

チャシコツ岬下B遺跡
 ウトロ遺跡

網走市教育委員会
 史跡最寄貝塚

美幌農業館・博物館
 美幌博物館報 2009
 美幌博物館研究報告 第18号
 2010年度 自然と語ろう！
 びほろふるさと体験隊
 2010年度 博物館自然講座
 グリーンレター 第169～179号
 ザリガニの暮らし～ザリガニっておもしろい～

北見市教育委員会
 川向23遺跡・川東3遺跡

戸部千春
 マキリ研究会通信 2011上・下

標津町教育委員会
 北海道標茶町ウライヤ遺跡調査報告書Ⅱ
 ー越前地点ー

標茶町郷土館
 標茶町郷土館報告 第23号

別海町教育委員会
 別海町旧奥行白駅通所調査報告書

別海町郷土資料館
 別海町郷土資料館だより No.141～152

根室市歴史と自然の資料館
 根室市歴史と自然の資料館紀要 第23号
 くるまいし No.26

厚岸町海事記念館
 厚岸海事記念館通信 No.30～34

釧路市立博物館
 ヤマの話を聞く会 記録集
 天然記念物春採湖ヒブナ生息地緊急調査報告書
 春採湖のヒブナ
 石炭の開発と利用のしおり
 釧路市立博物館報 No.406

釧路産炭地域総合発展機構
 釧路炭田産炭史

陸別町教育委員会
 天文台だより Vol.53～55

上士幌町ひがし大雪博物館
 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告 第33号

神田日勝記念館
 画室 Vol.39

清水町教育委員会
 清水町上清水5遺跡 土砂採取に伴う
 埋蔵文化財保護のための工事立会
 御影平和遺跡 平成22年度清水大樹線交20
 改築工事に伴う遺構確認調査報告書

帯広美術館
 北海道立帯広美術館所蔵品図録 2011
 開館20周年記念 コレクションのあゆみ

帯広百年記念館
 ふるさとの語り部 第23号

帯広大谷短期大学
 帯広大谷短期大学紀要 開学50周年記念号
 第48号

十勝晩成会
 十勝開拓の祖 依田勉三物語

十勝毎日新聞社広告局Cha i 編集部

Cha i 8月号/Vol.221

十勝農業共済組合総務部

NOSA I No.577

幕別町教育委員会

幕別町ふるさと館 アイヌ民具資料目録

大津・十勝川学会

大津十勝川研究 第9号

うらほろスタイル推進地域協議会

うらほろスタイルふるさとづくり計画

日向俊量

栗山村史

立川町史資料 第1号

百年100話 恵庭の風になった人々

新得町百年史

三笠市史

佐藤芳雄

茂岩小学校開校百周年記念誌 伸びよ！

浦幌町

T S U N A M I 3.11 東日本大震災記録写真集

浦幌ヒグマ調査会

浦幌クマ便り vol.12,No.2～vol.13,No.1

浦幌町教育委員会

平成17年度 浦幌町各会計歳入歳出予算書

開校90周年記念誌 かみうら

浦幌町教育目標

創立50周年記念誌 まなびや

【青 森 県】

青森県立郷土館

青森県立郷土館報 平成23年度版

青森県立郷土館研究紀要 第35号

青森県教育庁文化財保護課

特別史跡 三内丸山遺跡年報 14

三内丸山遺跡 特別史跡指定10周年記念誌

三内丸山遺跡 37

青森県教育委員会

三内丸山通信 第51～53号

【岩 手 県】

一関市博物館

一関市博物館研究報告 第14号

あかり

岩手県立博物館

平成22年度 岩手県立博物館年報

岩手県立博物館研究報告 第28号

岩手県立博物館だより No.129～132

北上市立博物館

北上市立博物館だより No.32

宮沢賢治記念館

平成22年度 宮沢賢治記念館年報

宮沢賢治記念館通信 第106号

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館年報 2

【宮 城 県】

仙台市富沢遺跡保存館

地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報

2011

動物の考古学

東北電力株式会社

白い国の詩 第611号

【山 形 県】

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

2010 年報

やまがたの古墳時代

ー最上川流域のムラと古墳ー

うきたむ 第36～37号

【新 潟 県】

十日町市博物館

国宝 笹山遺跡出土品のすべて

新潟県立歴史博物館

にいがたの土偶

博物館における縄文食プログラム策定の

基礎資料収集及び新分析手法の開発

【茨 城 県】

上高津貝塚ふるさと歴史の広場

上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報 第16号

ムラの風景くらしの足跡

大洗町幕末と明治の博物館

大洗町幕末と明治の博物館報 第1号

(独) 国立環境研究所

環境儀 No.43

【千葉県】

国立歴史民俗博物館

和宮ゆかりの雛かざり

企画展 紅板締め

ー江戸から明治のランジェリーー

企画展示 風景の記録ー写真資料を考えるー

長野県安曇野市 穂高古墳群

千葉県立中央博物館

千葉県立中央博物館研究報告 人文科学

第12巻 第1号

野田市郷土博物館・市民会館

野田市郷土博物館・市民会館年報・紀要第3号

野田の煎餅～醤油の町の名物～

千葉大学文学部考古学研究室

礼文町 浜中2遺跡

中標津町 鱒川第3遺跡

【埼玉県】

さいたま市立博物館

さいたま市立博物館研究紀要 第10集

春日部市教育委員会

幕末のかすかべ～開国・蝦夷・天狗党～

【東京都】

東京家政学院生活文化博物館

刺繍の世界ー刺繍作家板垣文恵先生作品展ー

東京大学総合研究博物館

東京大学総合研究博物館ニュース 第41～43号

江戸東京博物館

江戸東京博物館NEWS vol.73～76

明治大学学芸員養成課程

明治大学学芸員養成課程紀要 22

明治大学学芸員養成課程年報 26

明治大学博物館

明治大学博物館研究報告 第16号

駿台史学会

駿台史学 第141～143号

立正大学史学会

立正史学 第109～110号

法政大学史学会

法政史学 第75～76号

法政大学国際日本学研究所

HOSEI I.J.S. No.14

青山学院大学史学科研究室

青山史学 第29号

國學院大學文学部考古学研究室

本ノ木遺跡・卯ノ木泥炭層遺跡

穂高古墳群

國學院大學研究開発推進機構

まつりの継承

伝統文化のモノと心 第5号

國學院大學学術資料館 考古学資料館研究室

國學院大學学術資料館 考古学資料館紀要

第27～28輯

国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館

泰山荘

展示解説 考古資料

国際基督教大学博物館・湯浅八郎記念館年報

No.15～27

国際女子大学国際文化研究所

国際女子大学国際文化研究所紀要 Vol.14

出光美術館

出光美術館報 第153～157号

世田谷区立郷土資料館

等々力溪谷展ー溪谷の形成をめぐってー

資料館だより No.55

(株)文化環境研究所

Cultivate No.38

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

世界遺産年報 2012 (No.17)

地方史研究協議会

地方史研究 第351号

【神奈川県】

横浜市歴史博物館

横浜市歴史博物館資料目録 第19集

横浜市歴史博物館調査研究報告 Vol.6～7

横浜市歴史博物館紀要 第15号

横浜市歴史博物館NEWS 30～31

企画展図録 古墳時代の生活革命

ー5世紀後半・矢崎山遺跡ー

企画展図録 大紙芝居展

ーよみがえる昭和の街頭文化ー
企画展図録 近世横浜 海岸部の新田開発
図録 海にできた新田
企画展図録

ウズマキかわらけの謎を解く
ー都筑区・茅ヶ崎城跡と
南関東の中世城館ー
特別展図録 大昔のムラを掘る
ー三殿台遺跡発掘50年ー
収蔵資料展図録 寺社参詣・物見遊山
ー横浜・神奈川の名所ー
史跡 上之国館跡IV

神奈川大学日本常民文化研究所

2011年度 神奈川大学日本常民文化研究所
民具マンスリー 第44巻1～10号

川崎市市民ミュージアム

川崎市市民ミュージアム紀要 第23集

(独) 海洋研究開発機構事業推進部広報課

Blue Earth 112号～114号

【長野県】

飯田市美術博物館

飯田市美術博物館研究紀要 第21号
飯田市美術博物館・
飯田市上郷考古博物館年報 第20
伊那谷自然史論集 vol.12
「南信」新聞美術記事年表(明治・大正編)

飯田市美術博物館遠山常民大学

「遠山霜月祭〈南信濃②木沢地区編〉」

【富山県】

氷見市立博物館

氷見市立博物館年報 第29号
向島文庫(古書)目録
卑弥呼の時代の氷見ー古墳出現前夜ー
特別展 氷見の獅子舞

和船建造技術を後世に伝える会

とやま和船

【石川県】

珠洲焼市教育委員会

珠洲焼誕生!

【愛知県】

南山大学人類学博物館

南山大学人類学博物館紀要 第30号

【滋賀県】

滋賀県立琵琶湖博物館

琵琶湖博物館研究調査報告 第27号

【京都府】

同志社大学歴史資料館

同志社大学歴史資料館報 第14号
岩倉忠在地遺跡II

(財)古代学協会

(財)古代学協会年報 1 初音

【奈良県】

(財)水平社博物館

(財)水平社博物館研究紀要 第13～14号
LUCIFER 第14号

天理大学附属天理参考館

天理参考館報 第24号

(独) 奈良文化財研究所

奈良文化財研究所紀要 2011
伝統文化のモノと心 第1～3号
埋蔵文化財ニュース 142～145

奈良大学文学部文化財学科

文化財学報 第29集

【大阪府】

大阪市立自然史博物館

大阪市自然史博物館報 34～36

大阪大谷大学博物館

バ・コン窯跡群 6 A, B 号窯跡
博物館だより No.110

大阪大谷大学

大阪大谷大学文化財研究 第11号
志学台考古 第11号

関西大学博物館

関西大学博物館紀要 第17号
阡陵 No.63
阡陵 関西大学博物館学課程創設50周年記念特集
本山コレクションの由来
本山彦一蒐集資料目録

【兵 庫 県】

姫路市立城郭研究室

姫路市立城郭研究室年報 第21号

(財)竹中大工道具館

竹中大工道具館だより No.25～26

【広 島 県】

(株)熊平製作所

抜萃のつゞり その七十一

【山 口 県】

下関市立考古博物館

下関市立考古博物館研究紀要 第16号

下関市立考古博物館年報 第16号

弥生時代の拠点集落 その構造と機能

【福 岡 県】

福岡市埋蔵文化財センター

福岡市埋蔵文化財センター年報 第29号

IV. 資料の提供

貸 出 先	沖縄県南城市教育委員会
資 料 名	オタフンベチャシ跡写真
目 的	南城市教育委員会
期 間	平成23年5月24日

貸 出 先	JTBコミュニケーションズ北海道
資 料 名	博物館展示内写真 1 枚
目 的	BEST!from北海道 基本情報掲載
期 間	平成23年5月25日

貸 出 先	十勝農業共済組合
資 料 名	浦幌炭砒写真 8 枚
目 的	ノーサイ会報
期 間	平成23年9月21日

貸 出 先	北見市 佐伯正晴
資 料 名	絆（浦幌町立浦幌小学校開校100周年記念誌） 6 枚
目 的	浦幌町歴史の収集
期 間	平成23年9月30日

貸 出 先	北海道大学総合博物館天野哲也
資 料 名	十勝若月遺跡第16号住居跡出土 炭化種子の入った土器の写真 1 枚
目 的	教材用
期 間	平成23年11月17日

貸 出 先	浦幌町立厚内小学校
資 料 名	防空頭巾、始業の鐘、厚内空襲の写真 3、ヘルメット
目 的	教材用
期 間	平成23年12月 7 日～平成23年12月 8 日

貸 出 先	(財)日本鳥類保護連盟保護共生室
資 料 名	タンチョウ標本写真2枚
目 的	アンケート
期 間	平成24年3月9日

貸 出 先	帯広百年記念館内田祐一
資 料 名	チョウザメ剥製・イトウ剥製写真
目 的	十勝におけるアイヌの川漁について（仮称）
期 間	平成24年3月15日

V. 博物館の事業

分類	事業名	事業内容	場 所	期 日	備 考
収 集	旧資料の登録化	郷土博物館からの資料引継ぎ	博物館	通年	
	新資料の登録化	新資料・寄贈資料の整理登録化	博物館	通年	寄贈 686点 収集 40点
	図書資料の収集	図書資料の収集	博物館	通年	受贈 256点
	新聞資料の収集	新聞資料の整理	博物館	通年	カード化
保存	昆虫標本の作成・保存	チョウの採集・標本化	博物館	夏季	採集 66頭
展 示	巡回展 (帯広百年記念館共催)	帯広百年記念館運営連絡協議会移動展 「浦島甲一写真展」・・・十勝の賛歌	博物館	10/28～11/10	記帳者：101名
	小企画展	3. 11本町を襲った津波展	博物館	3/29～4/15	記帳者：187名
		3. 11本町を襲った津波展 (町内移動展)	上浦町公民館 吉野公民館 厚内公民館 厚内小学校	4月下旬～ 7月中旬	
		収蔵資料展「端午の節句展」	博物館	4/19～5/5	記帳者：94名 記念撮影：24名
		杉山雄作「透明水彩画の世界」	博物館	5/7～14	記帳者：87名
		矢内万喜男写真展	博物館	6/1～15	記帳者：213名
		真夏の残像展・・・戦争体験を伝える 語り部の会・・・戦争中の食事体験	博物館	8/7～27	記帳者：139名 語り部：佐藤道子 「戦中・戦後の代用食」
		収蔵資料展「開拓当時の農機具展示会」 ・・・開拓当時の食事体験（10月3日）	博物館	9/4～10/3	記帳者：159名 食事体験：9名
		アイヌ文化伝承事業（アイヌ協会共催） 「アイヌ文様刺繍展示会」	博物館	12/1～25	記帳者：159名
		2012年「年賀状展」	博物館	1/18～31	記帳者：70名
		3. 11本町を襲った津波・昭和27年 十勝沖地震ダイジェスト展	博物館 光南会館 吉公民館 中公民館	2/17～20	
		収蔵資料展「ひな人形展」	博物館	2/14～3/3	写真撮影：31名
		特別企画展 「デスモスチルス全身骨格展」	博物館	3/11～ 5月中旬	
調 査	古文書解説	十勝郡生剛村役場公文書	博物館	通年	博物館ボランティア
	浦幌野生動物調査			通年	
教 育 普 及	博物館講座の開設	初心者透明水彩画教室	博物館	5/28、6/11・ 26、7/9・23	講師：杉山雄作 10名参加
		世代間文化交流事業 「琴音の中で野点を楽しむ」	博物館他	7/16	琴代会・乙女会 70名参加
		子ども考古学教室出前講座	博物館	7/24	講師：埋蔵文化財センター 17名参加
		夏休み子どもヒグマの学校	博物館	7/30	講師：伊藤哲治・小泉沙奈恵 13名
		三世代交流博物館講座 「開拓の歴史」と「流しそうめん体験」	博物館 浦幌神社	8/6	講師：高橋悦子 70名参加
		ナイト・ミュージアム	博物館	8/13	講師：館長11名参加
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	4/16	9名参加

分類	事業名	事業内容	場 所	期 日	備 考
教 育 普 及		収蔵資料レコードコンサート	博物館	5/14	8名参加
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	6/4	8名参加
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	7/31	4名参加
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	9/23	6名参加
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	10/8	12名参加
		ナイト・ミュージアム	博物館	10/8	講師：館長 19名参加
		アイヌ文化伝承事業（アイヌ協会共催） 「初心者アイヌ文様刺繍」	博物館	11/7・8・ 14・15	講師：山本みい子 10名参加
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	11/8	6名参加
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	11/19	7名参加
		アイヌ文化伝承事業（アイヌ協会共催） 「初心者アイヌ彫刻教室」	博物館	12/3・4	講師：荒木しげる 7名参加
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	12/17	7名参加
		ニコルロビーコンサート	博物館	12/23	講師：ニコル 20名参加
		ナイト・ミュージアム	博物館	12/23	講師：館長 20名参加
		化石のレプリカづくり	博物館	1/12	講師：澤村寛 22名参加
		恐竜折り紙づくり教室	博物館	1/14	講師：三浦将宏 16名参加
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	1/7	5名参加
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	2/25	6名参加
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	3/24	6名参加
		ヒグマの生態を語る講座	博物館	3/27	講師：佐藤喜和ほか 18名参加
		化石のレプリカづくり 謎のデスモスチルスのおはなし会	博物館	3/30	講師：澤村寛 14名参加
	共催支援事業	上級アイヌ文様刺繍教室 （アイヌ文化振興・研究推進機構、 アイヌ協会浦幌支部主催、博物館共催）	博物館	7/5・6・12・ 13・19・20・ 27・28、8/2・ 3・9・10	講師：加藤シヅエ 開催回数：12回 延120名参加
	移動博物館教室の開設	博物館ミニ移動講座（野鳥編1） 「渡り鳥観察会…ハクガン」	豊 北	4/2	講師：トリおばさん 8名参加
		博物館ミニ移動講座（草花編1） 「春の草花観察会…ウラボロイチゲ」	万年・ 養 老	4/30	講師：坂下禮子 16名参加
		博物館ミニ移動講座（野鳥編2） 「青い鳥を探そう…森林公園」	森林公園	5/5	講師：トリおばさん 10名参加
		博物館ミニ移動講座（歴史編1） 「史跡見学会…古の人々が住んでいた丘」	十勝太 ・厚内	6/4	講師：館長 4名参加
		博物館ミニ移動講座（草花編2） 「初夏の草花観察会…豊北海岸」	豊 北	6/19	講師：坂下禮子 7名参加

V. 博物館の事業

分類	事業名	事業内容	場 所	期 日	備 考
教 育 普 及	移動博物館教室の開設	博物館ミニ移動講座（地学編1） 「古第3紀の浦幌を探る」	炭 山	8/2	講師：井上清和 18名参加
		博物館移動講座（地学編） 「K／T境界層見学会」	川流布	8/13	講師：館長 19名参加
		博物館ミニ移動講座（歴史編1） 「史跡見学会…古の人々が住んでいた丘」	十勝太・ オタフン ベチャシ	8/20	講師：館長 5名参加
		博物館ミニ移動講座（歴史編2） 「史跡見学会…古の人々が住んでいた丘」	十勝太・ オタフン ベチャシ	8/27	講師：館長 3名参加
		博物館ミニ移動講座（草花編3） 「秋の草花観察会…豊北海岸」	豊 北	9/17	講師：坂下禮子 3名参加
		博物館ミニ移動講座（野鳥編3） 「秋の渡り鳥観察会…豊北海岸」	豊 北	10/16	講師：トリおばさん 10名参加
		博物館ミニ移動講座（野生生物編） 「ヒグマの生態を探る」	炭 山	11/27	講師：ヒグマ調査会メンバー 10名参加
		移動自然（厳寒）体験教室 「厳寒期の小動物たちの様子を探る」	豊 北	2/4	講師：武藤・佐藤・郷 52名参加
	レファレンス業務		博物館	通年	
	「博物館年報」の発行	第12号・A4判・89P・500部	博物館	平成23年11月発行	
	「博物館紀要」の発行	第12号・A4判・53P・500部	博物館	平成24年3月発行	
	講義・指導等	東十勝ロングトレイル・モニターツアー 「春の森のルート」指導	K/T境界層 ・炭 山	5/21	65名
		札内青葉会 講義	炭山・博物館	5/30	21名
		東十勝ロングトレイル・モニターツアー 「森・海のルート」指導	K/T境界層・ 炭鉱・留真・ 豊 北	6/25～26	69名
		帯広市川西第2寿大学 見学指導	博物館	7/20	17名
		十勝社会科教育研究会地理巡検	町内文化財等	8/1	20名
		日本ライトハウス情報センター 小原二三夫さん 指導	博物館	8/12	1名
		浦幌小学校4学年総合学習 指導	町 内 博物館	8/30	児童：23名 引率：1名
		浦幌小学校3学年総合学習 事前学習 「上浦幌の自然、駅通」 指導	博物館	9/13	児童：23名 引率：1名
		厚内寿大学生社会見学 指導	町内・博物館	9/13	24名
		浦幌小学校3学年総合学習 「上浦幌の自然、駅通」 指導	K/T境界層 留真・豊北	9/15	児童：23名 引率：1名
		浦幌小学校4学年社会科見学 「町内文化財探訪」 指導	町内・ 博物館	10/4	児童：39名 引率：3名
		上浦幌中央小学校5・6学年 「町内地質時代探訪」 指導	炭 山 博物館	10/5	児童：15名 引率：1名
		豊頃小学校6学年 「地質時代探訪」 講義	炭 山 博物館	10/17	児童：31名 引率：4名

分類	事業名	事業内容	場 所	期 日	備 考
教育普及	講義・指導等	東十勝ロングトレイル・モニターツアー 「森のルート」 指導	炭 山 留 真	10/22	54名
		釧路市博物館「石炭基礎講座」 …「繋ぐ」浦幌炭鉱を訪ねて 講義	炭 山 博物館	10/23	39名
		幕別町白人小学校6 学年 「地質時代探訪」 講義	炭 山 博物館	10/27	児童：78名 引率：4 名
		十勝教育研修センター 「社会」…産業遺産… 講義	炭 山 博物館	11/15	館内教員20名
		十勝地域づくり連携ネットワーク 講義	博物館	11/16	管内理事者 ・開発局20名
		上浦幌中央小学校3・4 学年 「博物館学習」 指導	博物館	11/24	児童：9 名 引率：1 名
		上浦幌中学校 P T A 「教育の日」 講義	上浦公	11/26	PTA30名
		道教育大学釧路校 「地域教育開発集中講座」 講義	博物館・ 町内一円	12/20	学生・教員30名
		浦幌小学校3 学年 「博物館学習」 指導	博物館	2/8	児童：24名 引率：1 名
		池田町利別小学校5・6 学年 「博物館学習」 指導	博物館	2/9	児童：40名 引率：3 名
研修等	博物館協議会の開催	館長の諮問機関・年2 回	釧路文化センター	5/20・3/14	
	帯広百年記念館運営 連絡協議会総会	帯広百年記念館運営連のための連絡 協議体	帯広百年 記念館	6/9	佐藤館長出席
	道東3 管内博物館施 設等連絡協議会総会		釧路市立 博物館	5/26	佐藤館長出席
	北海道博物館大会・総会		釧路市	6/30～7/1	佐藤館長出席
	釧路産炭地域炭鉱資料 保存事業検討協議会		釧路市立 博物館	7/29	佐藤館長出席
	博物館ボランティア の集い2011		札幌市	10/24～25	佐藤館長出席
	博物館と魅力ある地 域づくりについて		札幌市	11/26	佐藤館長出席
	北海道開拓記念館 40周年記念大会		札幌市	11/16	佐藤館長出席
研究者等受入	日本大学	ヒグマ研究	博物館	随時	佐藤喜和ほか
	北海道大学	ヒグマ研究	博物館	随時	
	東京農業大学	ヒグマ研究	博物館	随時	小林喬子
	東京大学	縄文土器研究	博物館	随時	國木田 大ほか
	奈良文化財研究所	縄文土器研究	博物館	1/22	森先一貴
	個人研究者	化石の研究	博物館	随時	井上清和



PL.1 東日本大震災
浦幌津波被害写真展
(H23.3.29～4.15)

PL.2 東日本大震災
浦幌津波被害写真展
(H23.3.29～4.15)



PL.3 ウラホロイチゲ観察会
(H23.4.30)



PL.4 端午の節句写真撮影会
(H23.5.5)



PL.5 ロビーコンサート
(H23.5.15)



PL.6 初心者透明水彩画教室
(H23.5.28)

V. 博物館の事業



PL.7 矢内万喜男写真展
(H23.6.1～15)

PL.8 懐かしき昭和の生活回顧展
(H23.7.2～8.1)



PL.9 世代間文化交流
…琴音の中で野点を楽しむ
(H23.7.16)



PL.10 夏休み子ども考古学教室
室
(H23.7.24)

PL.11 流しそうめん体験
(H23.8.6)



PL.12 真夏の残像展
…戦争体験を伝える
(H23.8.7～27)

V. 博物館の事業



PL.13 K/T境界層見学会
(H23.8.13)

PL.14 ナイト・ミュージアム
(H23.8.13)



PL.15 史跡見学会
(H23.8.20)



PL.16 浦幌小学校4学年総合
学習
(H23.8.30)



PL.17 開拓当時の食事体験
(H23.10.3)



PL.18 秋の渡り鳥観察会
(H23.10.16)

V. 博物館の事業



PL.19 初心者アイヌ文様刺繍
(H23.11.7・8・14・15)



PL.20 ヒグマの生態を探る
(H23.11.27)



PL.21 アイヌ文様刺繍展示会
(H23.12.1～25)



PL.22 初心者アイヌ彫刻教室
(H23.12.3・4)



PL.23 ニコルロビーコンサート
(H23.12.23)



PL.24 化石のレプリカづくり
(H24.1.12)

V. 博物館の事業



PL.25 恐竜折り紙づくり教室
(H24.1.14)

PL.26 2012年「年賀状展」
(H24.1.18～31)



PL.27 ひなまつり写真撮影会
(H24.3.3)



PL.28 デスモスチルス全身骨
格展
(H24.3.11
～5月中旬)

PL.29 ヒグマの生態を探る講
座
(H24.3.27)



VI. レファレンス業務

2011年度において、照会などのあった内容は概ね次のようなものである。

- ユクエピラ滝について
- ウラホロイチゲの自生地について
- 浦幌炭砦について
- チャンについて
- K-T境界について
- 紀要について
- 駅通の場所について
- 化石関係について

VII. 博物館ボランティア

博物館活動の一環として、博物館ボランティアによる活動がある。博物館ボランティアの業務は、①資料整理等の補助業務 ②新聞資料等の整理 ③博物館図書の登録と整理 ④簡易な展示解説 ⑤調査研究活動の補助 ⑥その他館長が適当と認めた業務等が想定されるが、本館では①～③業務を主に行い、他に古文書解読も行われている。現在の登録者は6名であるが、日常的に活動している者は2名である。

なお、古文書解読の成果は、「浦幌町立博物館紀要」第12号に掲載した。

●博物館ボランティア活動日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実 人 数	11	7	11	8	5	7	11	12	13	9	16	15	125
延 人 数	1	2	2	2	2	1	2	2	1	1	2	2	20

●博物館ボランティア登録者

北 町	春日 基江	住吉町	三浦 直春	栄 町	橋本 友子	宝 町	佐藤 明美
十勝太	市川 藤子	万 年	坂下 禮子				

VII. 博物館日誌（抄）

平成23年

- 4月1日(金) 町辞令交付式。定例管理職会議。教育委員会辞令交付式。
- 4月2日(土) 博物館ミニ移動講座（野鳥編）「渡り鳥観察会・・・ハクガン」。
- 4月7日(木) シンカイビバリガイ化石発見者、井上清和氏来館。
- 4月9日(土) 十勝毎日新聞社広告局Chai編集部編集長森田匡彦氏、Chai掲載のための取材で来館。
- 4月13日(水) ㈱丹青社森氏来館。
- 4月16日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 4月19日(火) 定例教育委員会。端午の節句展（～5月5日）。
- 4月21日(木) 定例校長会議。
- 4月25日(月) 定例教頭会議。
- 4月30日(金) 博物館ミニ移動講座（草花編）「春の草花観察会・・・ウラボロイチゲ」。
- 5月5日(木) 博物館ミニ移動講座（野鳥編）「青い鳥を探そう・・・森林公園」。端午の節句写真撮影会。
- 5月6日(金) シンカイビバリガイ化石発見者、井上清和氏来館。
- 5月7日(土) 透明水彩画展（～28日）。
- 5月14日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 5月18日(水) 奈良大学通信縁本祐美子氏、「浦幌町郷土博物館報告チャシについて」のコピーのため来館。
- 5月21日(土) 博物館共催東十勝ロングトレイル・モニターツアー。東十勝ロングトレイル、団体見学。
- 5月22日(日) 帯広野鳥を楽しむ会、団体見学。
- 5月23日(月) 定例教育委員会。
- 5月24日(火) 定例校長会議。定例教頭会議。アイヌ協会浦幌支部桃井氏、刺繍の打ち合わせのため来館。
- 5月26日(木) アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏、アイヌ文様刺繍講座打ち合わせのため来館。佐藤館長、道東3管内博物館施設等連絡協議会出席（釧路市）。
- 5月28日(土) 初心者透明水彩画教室。
- 5月30日(月) 札内青葉会、団体見学。佐藤館長、札内青葉会の炭鉱見学の案内。
- 6月1日(水) 矢内万喜男写真展（～15日）
- 6月3日(金) 朝日新聞社記者島田賢一郎氏、矢内万喜男写真展の関係で来館。
- 6月4日(土) 博物館ミニ移動講座（歴史編）「史跡見学会・・・古の人々が住んでいた丘」。収蔵資料レコードコンサート開催。NHK、矢内万喜男写真展の関係で来館。
- 6月7日(火) NHK帯広放送局徳田亮祐ほか3名、矢内万喜男写真展取材のため来館（6月7日12時15分放送）。
- 6月8日(水) 佐藤館長、ロングトレイル協議会会議出席。
- 6月9日(木) シンカイヒバリガイ化石発見者、井上清和氏、8月2日化石教室の下準備のため来館。佐藤館長、帯広百年記念館運営連絡協議会出席（帯広市）。
- 6月11日(土) 初心者透明水彩画教室。
- 6月13日(月) ㈱丹青社森氏、早瀬氏、博物館リニューアル打ち合わせのため来館。
- 6月16日(木) 帯広市さわやか体操練習会、団体見学。
- 6月18日(土) 博物館ミニ移動講座（草花編）「初夏の草花観察会・・・豊北海岸」。教育の日実践交流会。北海道新聞社編集局編集本部記者佐藤仁氏、田川市石炭・歴史博物館田川市教育委員

VIII. 博物館日誌（抄）

- 会文化課学芸員福本寛氏、太平洋炭鉱管理職釧路倶楽部副会長佐藤富喜雄氏来館。
- 6月21日(火) 定例校長会議。
- 6月22日(火) 定例教育委員会。定例教頭会議。
- 6月25日(土) 初心者透明水彩画教室。(有)ジオプランニング代表取締役立澤富朗ほか、団体見学。博物館共催東十勝ロングトレイル・モニターツアー（～26日）。
- 6月30日(木) 佐藤館長、北海道博物館大会出席のため札幌へ出張（～7月1日）。
- 7月2日(土) 佐藤館長、浦幌町教職員ふるさと移動研修会出席（町内）。
- 7月3日(日) 新ひだか町図書館・郷土館建設検討委員会8名、随員職員3名来館。
- 7月4日(月) 日本大学ヒグマ研究グループ小泉沙奈恵氏来館。
- 7月5日(火) 上級アイヌ文様刺繍教室。アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。
- 7月6日(水) 上級アイヌ文様刺繍教室。
- 7月7日(木) 佐藤館長、全道公民館職員研修会出席のため札幌市へ出張。（～8日）
- 7月8日(金) 活彩あおもり考古学ジャーナリスト日本考古学協会鈴木克彦氏、日本大学ヒグマ研究グループ小泉沙奈恵氏来館。帯広市内中学校特別支援学級（知的）、団体見学。
- 7月9日(土) 初心者透明水彩画教室。
- 7月12日(火) 上級アイヌ文様刺繍教室。アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。
- 7月13日(水) 上級アイヌ文様刺繍教室。
- 7月16日(土) 博物館世代間文化交流事業「琴音の中で野点を楽しむ」。
- 7月19日(火) 定例校長会議。上級アイヌ文様刺繍教室。アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。
- 7月20日(水) 定例教育委員会。定例教頭会議。上級アイヌ文様刺繍教室。アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。NHK帯広放送局記者徳田亮祐氏、トーチかについての取材のため来館。
- 7月23日(土) 初心者透明水彩画教室（森林公園にて）。
- 7月24日(日) 子ども考古学教室出前講座。(財)北海道埋蔵文化財センター第1調査部主査倉橋直孝氏、主査藤井浩氏来館。
- 7月25日(月) 博物館協議会委員円子紳一氏来館。
- 7月26日(火) 博物館協議会委員春日基枝氏来館。
- 7月27日(水) 上級アイヌ文様刺繍教室。アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。
- 7月28日(木) 上級アイヌ文様刺繍教室。アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。
- 7月29日(金) 佐藤館長、釧路市産炭鉱資料保存事業検討協議会出席（釧路市）。
- 7月30日(土) 夏休み子どものヒグマの学校。
- 7月31日(日) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 8月1日(月) 十勝社会科教育研究会地理巡見。十勝社会科教育研究会、団体見学。
- 8月2日(火) 上級アイヌ文様刺繍教室。博物館ミニ移動講座（地学編）「古第三紀の浦幌を探る」。午後オプションでウラホロシンカイヒバリガイ化石の発見現場探索。シンカイヒバリガイ化石発見者、井上清和氏来館。
- 8月3日(火) 上級アイヌ文様刺繍教室。アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏来館。
- 8月5日(木) 本別町新津和一氏来館。
- 8月6日(土) 三世代交流博物館講座「開拓の歴史編」と「流しそうめん体験」。
- 8月7日(日) 真夏の残像展「戦争体験を伝える」（～27日）。
- 8月9日(火) 上級アイヌ文様刺繍教室。千葉県柏市前川勲氏、紀要2・6・7を受け取るため来館。
- 8月10日(水) 上級アイヌ文様刺繍教室。日本大学ヒグマ研究グループ小泉沙奈恵氏、鈴木晋悟氏、染谷慧人氏来館。
- 8月11日(木) 「すいとん」を食し戦時中・戦後の食を探る。日本大学ヒグマ研究グループ小泉沙奈恵氏来館。

- 8月12日(金) 日本ライトハウス情報センター小原二三夫氏来館。
- 8月13日(土) K-T境界層探索。ナイトミュージアム開催。
- 8月17日(水) 博物館協議会委員円子紳一氏来夏。
- 8月20日(土) 町内史跡見学会。
- 8月22日(月) 佐藤館長、退職準備セミナー出席のため札幌へ出張（～23日）
- 8月23日(火) 定例教育委員会。
- 8月25日(木) 定例校長会議。
- 8月26日(金) 浦幌中学校2年生及川珠美さん、職場体験学習。
- 8月30日(火) 定例教頭会議。浦幌小学4年生、総合学習のため団体見学。
- 8月31日(水) 佐藤館長、図書館職員と町内巡り。
- 9月1日(木) 定例管理職会議。佐藤館長、谷崎由喜男氏「浦幌炭鉱写真展資料」借用に帯広百年記念館に出張。
- 9月2日(金) 佐藤館長、谷崎氏資料不足分借用のため帯広百年記念館、浦幌炭鉱資料データ化をするため釧路市産炭鉱資料保存検討協議会に資料を持って出張。
- 9月4日(日) 収蔵資料展「開拓当時の農機具展示会」開催（～10月3日）。
- 9月5日(月) 札幌市蛭川隆夫氏、博物館見学のため来館。
- 9月6日(火) 日本大学ヒグマ研究グループ小泉沙奈恵氏、明治大学佐藤さんほか2人来館。
- 9月13日(火) 浦幌小学校3年生総合学習のため団体見学。
- 9月14日(水) 厚内寿大学、団体見学。
- 9月15日(木) 佐藤館長、浦幌小学校3年生、総合学習「上浦幌の自然、駅通」指導。
- 9月16日(金) 浦幌小学校4年生体験学習「きな粉づくり」。
- 9月17日(土) 博物館ミニ移動講座（草花編）「秋の草花観察会・・豊北海岸」。
- 9月20日(火) 定例校長会議。
- 9月21日(水) 十勝NOSAI総務部総務課係長根本喜代己氏、主事尾崎哲也氏、浦幌炭鉱写真借用のため来館。
- 9月22日(木) 定例教頭会議。
- 9月24日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 9月27日(火) 佐藤館長、アロデスス化石レプリカをもらい受けて帯広百年記念館へ出張。
- 9月29日(木) 定例教育委員会。
- 9月30日(金) 北見市佐伯正晴氏、町の歴史調べのため来館。
- 10月1日(土) 臨時教育委員会。
- 10月2日(日) 開拓時代の試食会（イモとカボチャ団子）。
- 10月3日(月) 浦幌小学校3年生蓑野美優さん、山保なつみさん、歴史の勉強のため来館。
- 10月4日(火) 浦幌小学校4年生総合学習（町内文化財探訪・行政・産業遺産）。
- 10月5日(水) 上浦幌中央小学校5・6年生総合学習（炭山・博物館）。アイヌ協会浦幌支部刺繍。
- 10月6日(木) 日本大学ヒグマ研究グループ小泉沙奈恵氏来館。
- 10月8日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。ナイト・ミュージアム開催。
- 10月11日(火) 日本大学ヒグマ研究グループ小泉沙奈恵氏来館。
- 10月12日(水) 東部十勝ロングトレイル活動協議会出席。
- 10月13日(木) 榎丹青社森氏、岡村氏来館。
- 10月14日(金) 帯広市大谷享氏、講師として招いてほしいため来館。北海道教育大学釧路校準教授宮前耕史氏来館。
- 10月16日(日) 博物館ミニ移動講座（野鳥編）「秋の渡り鳥観察会・・豊北海岸」。
- 10月17日(月) 上浦幌中学校山本博氏来館。

VIII. 博物館日誌（抄）

- 10月19日(水) 佐藤館長、釧路市立博物館戸田恭司氏、石川孝織氏と、釧路市立博物館移動研修の下見ため炭山へ出張。
- 10月22日(土) 博物館共催東十勝ロングトレイル・モニターツアー。
- 10月23日(日) 釧路市立博物館移動研修、団体見学（炭山・博物館）。
- 10月24日(月) 定例校長会議。定例教育委員会。佐藤館長、博物館ボランティアの集い出席のため札幌へ出張（～25日）。
- 10月25日(火) 定例教頭会議。
- 10月27日(木) 帯広百年記念館副主任増子和則氏、飯田恵子氏、帯広百年記念館移動展設営のため来館。幕別町白人小学校6年生、団体見学（炭山・博物館）。
- 10月28日(金) 帯広百年記念館移動展「浦島甲一写真展・十勝の賛歌」開催（～11月10日）。
- 11月1日(火) 東山町大西斉氏来館。
- 11月4日(金) 浦幌ヒグマ調査会事務局佐藤喜和氏来館。
- 11月5日(土) 浦幌町教育の日実践交流会。陸別町教育委員会社会教育・社会体育担当主任大鳥居仁氏来館。陸別町教育委員会ふるさとの遺跡を歩く、団体入館。
- 11月7日(月) 初心者アイヌ文様刺繍講座。優秀工芸士／アイヌ文化活動アドバイザー山本みい子氏来館。
- 11月8日(火) 初心者アイヌ文様刺繍講座。優秀工芸士／アイヌ文化活動アドバイザー山本みい子氏来館。
- 11月9日(水) 上浦幌中央小学校加藤飛露実氏、開町100年写真パネル貸し出しのため来館。
- 11月13日(日) 東京大学大学院人文社会系研究科准教授熊木俊明氏、助教授國木田大氏、博士課程学生役重みゆき氏、ロシア連邦ハバロフスク州郷土史博物館研究員O.B.ヤンシナ氏来館。
- 11月14日(月) 初心者アイヌ文様刺繍講座。優秀工芸士／アイヌ文化活動アドバイザー山本みい子氏来館。
- 11月15日(火) 初心者アイヌ文様刺繍講座。優秀工芸士／アイヌ文化活動アドバイザー山本みい子氏来館。十勝教育研修センター、団体見学（炭山・博物館）。
- 11月16日(水) 十勝地域づくり連携ブロック会議、団体見学。佐藤館長、北海道開拓記念館シンポジウム出席のため札幌市へ出張（～17日）。
- 11月17日(木) 佐藤館長、(株)丹青社（札幌市）にて展示打ち合わせ。
- 11月19日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 11月21日(月) 定例校長会議。佐藤館長、帯広美術館開館20周年記念レセプション出席のため帯広市へ出張。
- 11月22日(火) 定例教頭会議。
- 11月23日(水) 釧路市立城山小学校教諭釜谷陽子氏、釧路市立博物館石川孝織氏来館。
- 11月24日(木) 上浦幌中央小学校、しらかば保育園、団体見学。
- 11月27日(日) 博物館ミニ移動講座（野生動物編）「ヒグマの生態を探る」。
- 11月28日(月) (株)丹青社櫛引雄司氏、展示室改修工事のため来館（～30日）。浦幌小学校高岡愛子氏来館。
- 11月29日(火) 定例教育委員会。川西年金友の会会長前川寛美氏来館。佐藤館長帯広市豊西長寿会、団体見学（炭山・博物館）。
- 12月1日(木) アイヌ文様刺繍展示会（～25日）。NPO法人Envision環境保全事務所早稲田宏一氏、エゾシカ調査のため来館。
- 12月2日(金) 定例管理職会議。教育の日推進協議会第2回役員会。
- 12月3日(土) 初心者アイヌ彫刻教室。
- 12月4日(日) 初心者アイヌ彫刻教室。

- 12月8日(木) 帯広百年記念館学芸調査員／北海道大学総合博物館資料部研究員農学博士持田誠氏、植物標本の調査のため来館。
- 12月10日(土) 釧路市立博物館友の会松浦夕希子氏来館。
- 12月13日(火) 北海道教育大学釧路校講師添田祥史氏、添田ゼミ学生8名来館。
- 12月17日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 12月19日(月) 定例校長会議。定例教頭会議。
- 12月20日(火) 北海道教育大学釧路校宮前ゼミ研修、団体見学（豊北・留真）。
- 12月22日(木) 定例教育委員会。
- 12月23日(金) ナイト・ミュージアム開催。ニコルさんのファーストロビーコンサート開催。
- 12月29日(木) 定例管理職会議。
- 12月30日(金) 町仕事納め式。教育委員会仕事納め式。

平成24年

- 1月6日(金) 町仕事始め式。教育委員会仕事始め式。
- 1月7日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。佐藤医師来館。
- 1月10日(火) 酒井清氏、木村美奈氏来館。
- 1月12日(木) 冬休み体験講座「化石のレプリカづくり教室」開催。十勝毎日新聞社記者大笹氏、足寄動物化石博物館館長澤村氏来館。
- 1月14日(土) 冬休み体験講座「恐竜折り紙づくり教室」開催。
- 1月16日(月) 高橋悦子氏来館。
- 1月17日(火) 十勝毎日新聞社記者大笹氏来館。
- 1月18日(水) 2012年賀状展開催（～31日）。酒井清氏来館。
- 1月22日(日) 奈良文化財研究所研究員森先一貴氏、東京大学助教授國木田大氏来館。
- 1月30日(月) ㈱丹青社森氏来館。
- 2月2日(水) 定例管理職会議。
- 2月4日(土) 移動自然（厳寒）体験教室開催。
- 2月8日(水) 浦幌小学校3年生「博物館見学」のため団体見学。
- 2月9日(木) 池田町立利別小学校5・6年生、団体見学。
- 2月14日(火) 収蔵資料「雛人形展」開催（～3月3日）。
- 2月21日(火) 定例校長会議。
- 2月23日(木) 定例教頭会議。
- 2月25日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 2月28日(火) 定例教育委員会。佐藤館長、幕別町忠類へ出張。
- 3月2日(水) 定例管理職会議。
- 3月3日(水) 収蔵資料「雛人形展」写真撮影会。
- 3月11日(日) 特別企画展「デスモスチルス全身骨格展」開催（～5月17日）。
- 3月13日(火) 上浦幌横山誠一氏来館。
- 3月14日(水) 浦幌町博物館協議会開催(図書館協議会と合同開催)
- 3月17日(金) 博物館ミニ移動講座（野鳥編）「渡り鳥観察会」。
- 3月21日(水) 定例教頭会議。
- 3月24日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 3月26日(月) 定例教育委員会。
- 3月27日(火) 博物館講座「ヒグマの生態を探る」開催。
- 3月30日(金) 春休み体験講座「化石のレプリカづくり教室」開催。

IX. 博物館の利用状況

(1) 博物館入館者の推移

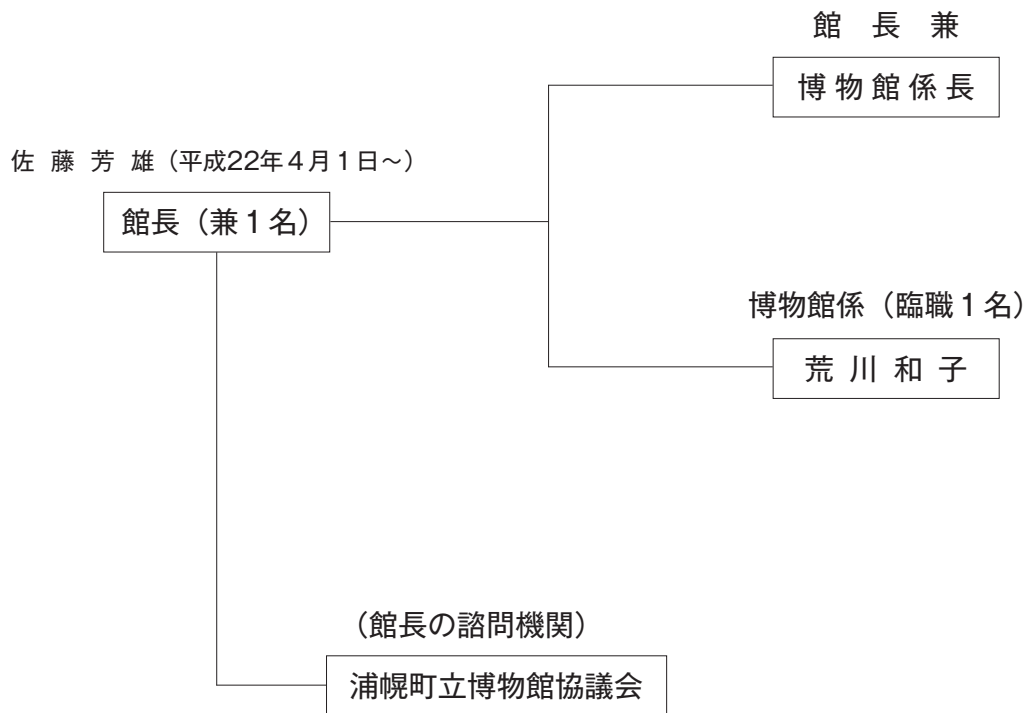
(平成24年 3月31日現在)

	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
月	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数
4	25	990	25	630	25	725	25	573	25	582	26	664
5	24	912	25	561	25	602	25	647	25	545	26	997
6	26	541	26	785	25	843	25	739	26	654	26	753
7	25	762	26	857	27	817	27	616	27	862	27	1,185
8	27	883	27	1,115	27	1,022	26	1,058	26	1,111	26	1,077
9	24	611	26	881	24	588	24	707	25	848	25	866
10	26	775	26	639	27	589	27	967	27	729	26	784
11	25	474	24	525	25	764	24	599	23	859	26	830
12	24	372	25	583	24	652	25	613	25	482	26	793
1	22	428	22	371	23	497	23	558	22	501	22	680
2	24	477	25	476	23	300	23	423	24	472	25	527
3	26	812	25	662	25	752	25	490	27	826	26	856
小計	298	8,037	302	8,085	300	8,151	299	7,990	302	8,471	307	10,012
累計	2,175	71,667	2,477	79,752	2,777	87,903	3,076	95,893	3,378	104,364	3,685	114,376

(2) 団体入館者（事前に連絡のあったもの）

5月 21日	東十勝ロングトレイル協議会	65人
5月 22日	帯広野鳥を楽しむ会	30人
5月 30日	札内青葉会	21人
6月 16日	帯広さわやか体操会	20人
6月 25日	(有)ジオプランニング	10人
7月 3日	新ひだか町図書館・郷土館建設検討委員会	11人
7月 8日	帯広市内中学校特別支援学級	95人
7月 20日	帯広市川西第2寿会	17人
7月 20日	更別村介護者のつどい	10人
8月 1日	十勝社会科教育研究会地理巡見	20人
8月 30日	浦幌小学校4年生総合学習	39人
9月 13日	浦幌小学校3年生	24人
9月 14日	厚内寿大学	21人
10月 27日	幕別町白人小学校6年生	80人
11月 5日	陸別町教育委員会ふるさとの遺跡を歩く	29人
11月 15日	十勝教育研修センター	20人
11月 16日	十勝地域づくり連携ブロック会議	20人
11月 24日	浦幌しらかば保育園	35人
11月 24日	上浦幌中央小学校	10人
11月 29日	帯広市豊西長寿会	28人
12月 20日	北海道教育大学釧路校宮前ゼミ	30人
2月 8日	浦幌小学校3年生社会科体験	24人
2月 9日	池田町利別小学校5・6年生	40人
3月 26日	浦幌幼稚園ナイト・ミュージアム	13人

X. 博物館の組織



平成24年3月31日現在

職 名	氏 名	住 所	備 考
会 長	橋 本 友 子	栄 町 2 区	
副会長	有 坂 一 子	住吉町2区	
委 員	太 田 朋 則	住吉町1区	
〃	中 村 吉 昭	緑 町	
〃	赤 間 孝 之	南 町	
〃	円 子 紳 一	北 栄 2 区	
〃	春 日 基 江	北 町 2 区	
〃	西 森 七 枝	新 町	

（任期 平成25年12月18日まで）

XI. 博物館活動のマスコミ報道

高台から渡り鳥の様子を観察する参加者



この時期の町内は本州方面から北へ帰る数万羽の渡り鳥が飛来し、港や河川、湖沼、畑などで羽を休めており、道路からでも観察できる。

また、十勝での越冬が増えてきたタンチョウや、冬季に多く見られるオジロワシ、オオワシ、それに渡り途中のマガン、ヒシクイと5種類の国の天然記念物が観察できることも知られる。

この日は、町の広報紙に野鳥写真の連載をしている野鳥愛好家が案内。畑の中にハクガンの三十数羽の群れを確認、「日本に飛来中のハクガンのほとんどがここに集まっている」と聞き、参加者はカメラを向けたり、双眼鏡でのぞくなど熱心に観察していた。海岸部の崖ではハヤブサの営巣も観察でき、改めて浦幌の野鳥の豊かさを実感していた。(大笹健郎)

ハクガンやハヤブサの営巣写真に十勝川河口域10人が観察移動講座、ふるさと探訪「渡り鳥観察会パート1」が2日、町内で開かれ、町民約10人が十勝川河口域でガン、カモ類を観察した。

「十勝毎日新聞」 2011年4月5日

レコードの味わい 高級プレーヤーで

浦幌 16日に開催

【浦幌】町立博物館・図書館のロビーコンサート「ミニ・ミニレコードコンサート」が16日午後1時から、両施設のある町教育文化センター(町桜町)1階ロビーで開かれる。

デジタルオーディオ全盛の今、レコードの独特の音の味わいを、町民が寄贈し博物館が修復した高級プレーヤーで楽しもうという試み。博物館所蔵のレコードほか、聴きたいレコードがあれば持参する。参加無料。問い合わせは同博物館(0155・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2011年4月15日

30日にウラホロ イチゲ観察会

参加者募集

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座「ウラホロイチゲ群落観察会」が30日、町内で開かれる。

浦幌と釧路管内でしか見られないキンポウゲ科の植物「ウラホロイチゲ」の観察に出かける。同博物館のある教

防災・防犯設備

ご相談は**フジ防災**

電話23・8787・24時間受付中

育文化センター（町桜町16）前に午前9時に集合し、町内の自生地に向かう。

定員は10人、小学生以下は保護者同伴で。参加無料。帽子、軍手、長靴など、野外に適した装備で参加する。雨天中止。また、開花が遅れている場合は延期することもある。

申し込みは前日までに同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2011年4月23日

浦幌 津波の怖さ伝える 町内の被災現場写真展



【浦幌】東日本大震災による町内の津波被害を伝える写真展（町立博物館主催、十勝毎日新聞社共催）が、上浦幌公民館（町宝生165）図書室で開かれている。厚内漁港周辺を中心に、本紙カメラマンや町民が撮影した被災現場の写真約40枚を展示し、関心を集めている。

町内の津波被害を伝える写真展会場

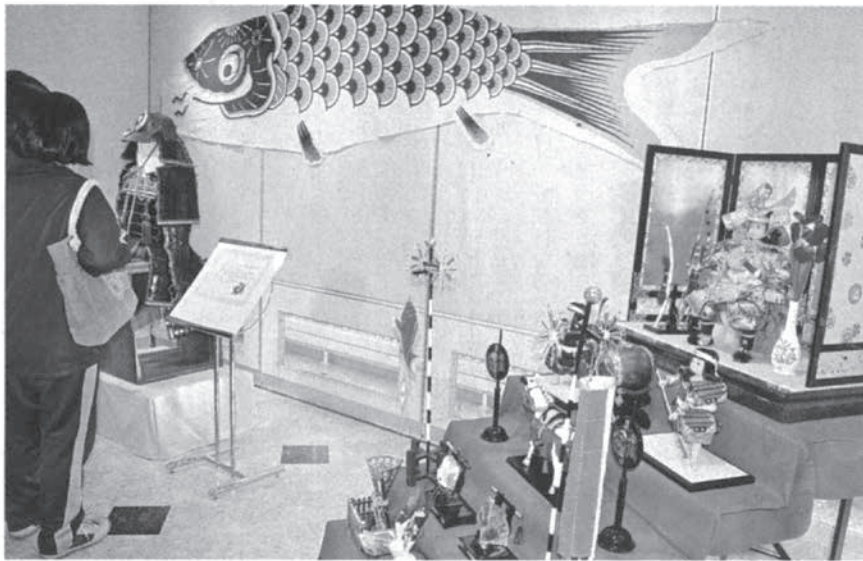
同震災では町内の厚内漁港で4艘の津波を観測。人的被害はなかったが、13隻の漁船や漁港施設、さらには住宅地にも津波が侵入し、7戸が床上浸水の被害を受けた。一

方、上浦幌地区では厚内漁港から車で約50分かかることもあり、同じ町の被害に実感が

ない住民も多かった。写真展は、震災を自分たちの生活にも直接関わるものとして理解し、今後の全国の被災地支援と、防災について改めて

考えてもらおうと企画された。15日まで町立博物館で行われていたものの移動展。水没する漁港、岸壁や突堤に打ち上げられた船、沈没船の引き揚げ、避難所の様子などが写し出されている。入場無料、5月11日まで。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2011年4月23日



鎧兜や五月人形などが並ぶ展示会場

【浦幌】町立博物館（佐藤芳雄館長）の「端午の節句収蔵展」が、同館のある教育文化センターらぼる21（町桜町）1階ロビーで開かれている。鎧兜（よろいかぶと）や五月人形が並び、親子連れらの目を引いている。

戦国～江戸時代 鎧兜に驚き

浦幌町立博物館
端午の節句収蔵展

展示されている鎧兜1組は1968年に町民から寄付された。戦国時代から江戸時代ごろにかけて、実際に使われたものとみられている。

この他、現代の五月人形や兜の段飾り、こいのぼり、「こどもの日」にちなんだ70～80年代のアニメキャラクターのメンコや、昭和中期まで使われていた鉄製のスケートの刃、竹スキーなどもある。

訪れた中学生は「浦幌にも鎧兜があったとは」「昔はスケート靴がなかったから、工夫していたのですね」など感想を話していた。

5日まで（2日は休館）。午前10時～午後5時。最終日は午後1時～同5時の間、五月人形と一緒に写真撮影ができ、同館が参加者に写真を1枚進呈する。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2011年5月1日

透明水彩画教室

【浦幌】画家の杉山雄作さん（池田）を講師に招いた「初心者透明水彩画教室」が28日に始まる。7月まで計5回、透明水彩の基礎を学ぶ。

町内の季節の花々や風景を描く。日程は28日と6月11、25日、7月9、23日。町立博物館の2階で、午後1時半～同3時半に行う。参加無料。透明水彩絵の具と水彩用スケッチブックなどの用具は各自持参する。

定員は先着10人。申込期限は20日。同博物館ロビーでは28日まで、杉山さんの透明水彩画展も開かれている。申し込みは同館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2011年5月18日

街並みや自然 透明水彩画で

杉山さん作品展

【浦幌】町立図書館特別展示ホールで、池田町内で画廊喫茶「ムーン・フェイス」を主宰する杉山雄作さんの透明水彩画展が開かれている。写真。杉山さんは自身の創作活動



に加え、同画廊などで透明水彩画の教室を開いている。今回は道内の街並みや自然風景を描いた約20点を展示。「色の濃淡を駆使して描いた作品。ぜひ興味を持ってほしい」と話している。28日まで。入場無料。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2011年5月20日

5日森林公園で 春の野鳥観察会

【浦幌】町立博物館のミニ講座四季編「春の野鳥観察会・青い鳥を探そう」が5日、うらほ

る森林公園で開かれる。例年渡って来る青い鳥「オオルリ」を観察する。午前8時に「みのり館」前に集合。参加無料。雨天中止。天候な

どの事情で観察できないこともある。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」
2011年5月3日

4日史跡見学会 十勝太や厚内で

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座（歴史編）として6月4日、町内史跡見学会パート1「古（いにしえ）の人々が住んでいた丘」が開かれ

る。午前10時に同館（町桜町、教育文化センターらぼろ21）に集合し、十勝太や厚内地区の遺跡を巡る。参加無料。申し込みは前日までに同館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2011年5月31日



美しい自然の写真が並ぶ展示会場

雲仙普賢岳 元NHKカメラマン矢内さん 殉職から20年

自然や命テーマに40点

【浦幌】1991年に長崎県・雲仙普賢岳の火砕流取材で殉職した元NHKカメラマン矢内万喜男さん（享年31）の山岳写真展「山と花と…そして命（町立博物館、実行委員会共催）」が、同博物館（町桜町、教育文化センターらぼろ21）で開かれている。火砕流発生から3日で丸20年となることから、妻の真由美さん（NHKエディューショナルプロデューサー）の出身地である浦幌での写真展が実現した。初日から多くの町民らが訪れている。

矢内さんは1960年、群馬県 噴火の取材中に火砕流に巻き込まれ、82年にNHKに入り、報れ、同25日に亡くなった。

道カメラマンとして札幌、帯広放送局に勤務。88年に当時帯広シテイーケーブル（OCTV）に勤務していた真由美さんと結婚。その後、報道局ニュースセンター勤務となり、91年の湾岸戦争では解放直後のクウェートから映像を伝えた。同年6月3日、雲仙普賢岳の雪山系、十勝岳連峰や日高山脈の

浦幌で写真展始まる

風景、高山植物や小動物の写真パネル40枚を展示。雲海と目の出をとらえた「赤岳」などが並ぶ。また、91年当時は1歳3カ月だった娘の美春さん（東京工芸大4年）が祖母（矢内さんの母）を撮影した、3枚組写真「元気でいること」も併せて展示している。

同博物館の佐藤芳雄館長は「矢内さんについては戦場や火山噴火など『動』の撮影イメージがあったが、こうした『静』の作品の美しさと優しいまなざしに驚かされる。多くの人に見てほしい」と話している。入場無料。15日まで（午前10時～午後5時）。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2011年6月2日

デッサンで視線 対象物の方見て

杉山の透明水彩画教室始まる

【浦幌】画家の杉山雄作さん（池田町在住）を講師に招いての「初心者透明水彩画教室」が5月28日、町立博物館で始まった。写真。

約10人が参加、初回は基礎知識からスタートした。杉山さんは紙の白地を生かし、色の濃淡で描くことの他、広いところから狭いところへ、明るい部分から暗い部分へ、遠くから手前への順番で描くことを説明した。「モットーは単純・軽快・素早く」と述べた。また、デッサンの際

は「鉛筆は長く持ち、視線は紙でなく対象物の方を見て」などとアドバイス。参加者は真剣な表情で聴き入り、自らの制作に取り入れていた。教室は7月まで計5回開かれ、町内の季節の花々や風景を描く予定。（大笹健郎）



「十勝毎日新聞」 2011年6月1日

地元厚内港の被害を伝える写真に見入る子供たち



レコードコンサート

【浦幌】町立博物館・図書館の「レコードコンサート」が4日午後1時から、両施設のある町教育文化センター（町桜町）1階ロビーで開かれる。博物館所蔵のレコードをかける他、聴きたいレコードがあれば持参するとよい。参加無料。問い合わせは同博物館（0155-576-2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2011年6月3日

浦幌の津波被害記録40枚

東日本大震災写真展

町公民館 来場者に驚き

【浦幌】東日本大震災による浦幌の津波被害を伝える写真展（町立博物館主催、厚内公民館、十勝毎日新聞社共催）が2日、同公民館1階ロビー（町厚内2）で始まった。地元厚内漁港の被害を中心に、本紙カメラマンや町民が撮影した写真約40枚を展示している。

会場を訪れた廣尾瑠姫さん（厚内小4年）は「海面がこんなに上がり下がりがしていた」と驚きの表情。谷川あやめさん（浦幌中1年）も「海面から離れた所に船が何隻も打ち上げられるなど、こんなにひどい状態とは思っていなかった」と話した。

厚内漁港では4層級の津波で大津漁協厚内支部の施設が壊され、漁船が岸壁に乗り上げるといった他、市街地が現在の形になってから初めて住宅地に津波が流れ込むなどの被害を受けた。ただ、子供や高齢者は危険回避のため発生から数日間、港に近寄れなかったため、実際にどのような波が押し寄せ、船が流されたのかは見えていない。

避難所でもあった厚内公民館の古畑和恵館長は「漁業者以外の人にも見てもらい、震災が人ごとでないことを感じ、防災について考えてほしい」と話している。22日まで。午前9時～午後5時。土・日曜日と祝日は休館。写真展はこれまで、内陸部の教育文化センターや浦幌公民館、吉野公民館で開かれてきた。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2011年6月4日

琴演奏と野だて

16日に文化交流会

【浦幌】琴の演奏と野だてを楽しむ「世代間文化交流会」(宮城社琴代会、茶道表千家乙女会、うらほろ和こころ体験塾、町立博物館主催)が、16日午前11時から町教育文化センターらぼろ21前の芝生で開かれる。

参加料は菓子代として300円。雨天時は同センターロビーで。

参加申し込みは7日までに町立博物館(015・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2011年7月5日

昭和の家具など並ぶ 浦幌博物館で生活回顧展



昭和の生活感が漂う回顧展

【浦幌】町立博物館収蔵資料展「懐かしき昭和の生活回顧展」が、同館特別展示室で開かれている。

昭和30年代から50年代に家庭内で使われていた円形の卓袱台(ちゃぶだい)などの家具や、今ではほとんど見ることのない大型ラジカセや8ミリカメラ、足踏み式のミシン、

映画や芝居のポスターなど約200点を展示。当時の街並みの風景を収めた写真も展示している。

会場には多くの町民が訪れ、親の世代から聞いた当時

「十勝毎日新聞」 2011年7月15日

の暮らしについて語り合うなどしている。
30日まで(19、25日は休館)。午前10時～午後5時。
入場無料。
(大笹健郎)

24日に考古学教室

【浦幌】「夏休み子ども考古学教室 大昔の人々の生活を知ろう」(道立埋蔵文化財センター、町立博物館主催)が、24日午後1時から同博物館で開かれる。

同センター(江別市)から学芸員2人が来町し、本物の土器や石器に触れながら学習する。勾玉(まがたま)作りも体験できる。参加無料。タオルと、イチゴの空パックか小さな洗面器を持参する。先着20人。申し込みは同博物館(015・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2011年7月21日

ヒグマを学ぶ 30日に「学校」

【浦幌】小学生を対象にクイズ形式でヒグマの生態と人間との関係を考える「ヒグマの学校」(町立博物館主催、浦幌ヒグマ研究会共催)が30日午後1時から、同博物館(町桜町、町教育文化センターらぼろ21・2階)で開かれる。2002年から開かれている人気の講座。同研究会会員で町内でフィールドワークを行っている日大生らが、毛皮やさまざまな標本を使って説明する。

参加無料。申し込みは同博物館(015・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2011年7月27日



完成した勾玉を手に笑顔の子供ら

子供たち勾玉作り挑戦

浦幌で夏休み考古学教室

【浦幌】「夏休み子ども考古学教室 大昔の人々の生活を知ろう」(道立埋蔵文化財センター、町立博物館主催)が24日、同博物館で開かれ、町内外の約20人が勾玉(まがたま)作りに挑戦した。

講師には、同センター(江別市)第一調査部普及活用課主査の藤井浩さんと倉橋直孝さんを招いた。考古学に関するビデオを観賞した後、藤井さんが「浦幌には多くの遺跡があり、私たち研究者には有名な場所。きょうは昔の人の暮らしを考えよう」とあいさ

「十勝毎日新聞」 2011年7月28日

来月2日古第三紀の 浦幌を探るミニ講座

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座(地学編)「古第三紀の浦幌を探る」が8月2日、同館(町桜町、教育文化センターらぼろ21)発着で開かれる。

当日は午前9時に同館の駐車場前に集合。町内の常室や炭山地区で貝などの発掘を体験する。講師は帯広市の化石研究家井上清和さん。

参加無料。雨天中止。帽子、軍手、長靴など野外活動に適した服装で。虫よけスプレー、水、袋、ハンマーなども持参するとよい。申し込み、問い合わせは同館(015・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2011年7月29日

開拓の歴史を学び
流しそうめん体験

6日浦幌町博物館

【浦幌】三代交流博物館講座「開拓の歴史と流しそうめん体験」(町立博物館、うらほろ和ごころ体験塾主催)が、8月6日に開かれる。

第一の扉「開拓の歴史編」は午前11時から同博物館で開き、郷土史研究家の高橋悦子さんが講師を務める。第二の扉「夏の風物詩編」では、町東山の参道の傾斜を利用して流しそうめんを行う。参加料はそうめん代300円。申し込みは8月1日までに同博物館(015・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2011年7月31日



大学院生が身にまとったヒグマの毛皮に触る子供たち

ヒグマの生態 クイズで学ぶ

浦幌調査会が「学校」

【浦幌】ヒグマの生態と人の学校(町立博物館主催、間との関係を考える「ヒグマ」浦幌ヒグマ調査会共催)が7

月30日、同館で開かれた。町内外の小学生や家族連れら15人が参加し、クイズ形式で楽しく知識を深めた。

浦幌を拠点に道東のヒグマを調べている同調査会実施の人気イベント。会員である日大の大学院生や学生、北大OBの4人が講師を務めた。

参加者はスライドで説明を受けた他、毛皮で大ききを見たり、骨に触るなどし、ヒグマの姿を五感で感じた。ヒグマよけスプレーの噴射練習にも臨んだ。

クイズでは「ヒグマにない色はどれ？」が出題され、近年、国後島で確認された白い毛の写真も交え、学術上の新しい発見も学んだ。また、ヒグマに襲われないための3つのポイント「出合いそうな場所に行かない」「ばったり合ってしまうのを避ける」「刺激しない」について、寸劇を通して学習した。

オーストラリアから冬休みで帯広市内の祖母宅に滞在中、同教室に参加したカイ・ディーリー君(9)は「宿題でクマについて調べることになっていたので、学べてうれしい。楽しかった」と話していた。

(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2011年8月3日

戦争体験 風化させぬ

浦幌町立博物館で展示
あす語り部の会

【浦幌】町立博物館の企画展「真夏の残像 戦争体験を伝える」が21日まで、同博物館（教育文化センターらぽろ

21内）特別展示室で開かれて
いる。11日正午からは「語り
ぶ。厚内空襲の記録をはじめ
め、「武運長久」などの寄せ



第2次大戦当時の資料が並ぶ特別展

部の会として、戦中戦後の食料難体験者と代用食「すいとん」を食べながら「食」について語り合う。

終戦の日に合わせた恒例の展示で、町民から寄付された戦時中の資料が並

書きが書かれた日章旗や、軍服、大日本国防婦人会厚内分会旗などを展示。さらに一升瓶の中で玄米を棒で突いて精米する体験もできる。展示、語り部の会とも入場無料。特別展に合わせ同センター内の町立図書館では、戦争に関わる本のコーナーを設けている。絵本やコミックなど約70冊を展示し、貸し出しもし

ている。
問い合わせは同博物館（015・576・2009）
（大笹健郎）へ。

「十勝毎日新聞」 2011年8月10日

■浦幌 琴の演奏や抹茶を楽しむ

「世代間文化交流会」（宮城社琴代表、茶道表千家乙女会、うらほろ和ごころ体験塾、町立博物館主催）が町教育文化センターらぽろ21のロビーで開かれ、親子連れら約40人が参加した。写真。7月16日に開催。琴代会の田中克枝代表らが唱歌や童謡を琴で奏でる中、乙女会のメンバーが抹茶と菓子を振る舞った。参加した町内の山崎キヨ子さん（64）は「大変いい会だった。また企画してほしい」と話していた。



「十勝毎日新聞」 2011年8月1日

「K/T境界層」 13日に探索会

【浦幌】町立博物館の移動講座「恐竜絶滅の謎（なぞ）を探る K/T境界層探索」

が13日午前9時から、同博物館（教育文化センターらぼろ21）発着で開かれる。

町茂川流布の山中に露出している地層「K/T境界層」は、恐竜が繁栄していた白亜紀の地層と、哺乳類、鳥類が勢力を伸ばす第三紀の地層の境界に存在。約6550万年前の隕石（いんせき）の衝突で巻き上げられた粉じんなどが堆積した地層で、この時代に地球環境は激変、恐竜も滅んだとされ、国内では唯一、浦幌で発見されている。道有林のゲート内にあり、通常は入れない。

野外活動に適した服装で、虫よけスプレー、飲料水などを持参するとよい。定員は30人で、申し込み順。希望者は12日までに同博物館（015・576・2009）へ申し込むとよい。雨天中止。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2011年8月10日

地球の歴史を実感

浦幌博物館 親子でK/T境界層探索



露出したK/T境界層を観察する子供たち

【浦幌】町立博物館の移動講座「恐竜絶滅の謎を探る K/T境界層探索」が13日に行われ、町内外の親子連れら約30人が地球の歴史ロマンに思いをはせた。

K/T境界層は、町茂川流布の道有林内に国内で唯一露

出。恐竜が栄えていた白亜紀の地層と、哺乳類などが栄える古第三紀の地層の間にある。恐竜絶滅の原因の1つとされる約6550万年前の巨大隕石（いんせき）小惑星IIの衝突による粉じんなどが堆積している。

同博物館は十勝総合振興局森林室などの協力で、毎年夏休みなどに観察会を開いている。

この日は同博物館に集合し、バスで現地へ。露出地点では佐藤芳雄館長の説明を聞き、子供たちが炭のように黒い層と、その下の石灰岩の多い地層をのぞき込み、手で触れたり、厚さを調べるなどしていた。近くの茂川流布川の溪流で生物も観察。その後、同博物館に戻り、町内で発掘された化石などを見学した。音更町から参加した竹内あかりさん（緑南中1年）は「地層や化石に興味があるので参加した。隕石落下は知っていたが、十勝にそのしるしがあったのは知らなかった。勉強になった。また来たい」と話していた。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2011年8月17日

博物館改装へ

幌 浦 貝化石類を充実 ブース増設、映像データ更新

【浦幌】町立博物館（佐藤秀雄館長）は今年度、館内の展示室を改装する。地元で発見された新種ウラボロシンカイヒバリガイ（学名バシモディオルス・イノウエ）など、近年充実してきた貝化石類の展示を充実させる。評価の高い石器・土器類の展示と合わせて2本柱とし、全道・全国へ貴重な資料を発信する方針だ。早ければ10月にも改装作業に着手する。



町立博物館で貝化石を見学する中学生

同博物館は町教育文化センターの1階にあり、展示室は広さ約380平方メートル。今回の改装では展示ブースを増設し、現在、互いに離れた場所に展示されている貝の化石を集め、年代を追って展示する。「系統的に学べるよう視覚的にも工夫したい」（町教委）という。

また、動物化石についても充実を探り、その他の展示も映像データや資料の一部を更新する。改装作業は1〜2週間で終える見込み。予算は500万円。



化石研究家の井上清和さん（右）から学ぶ児童。体験教室は町外からの参加も多い。

同博物館は専門の学会員がいないが、足寄動物化石博物館の専門家や民間の研究家を迎えての化石発掘体験や教室を年数回開き、町内外から好評を得ている。今後もフィールドでの体験と組み合わせ、科学教育に、化石と博物館を活用していく方針だ。

町内ではこれまで、厚内地区の川の約3000万年前の地層からウラボロシンカイヒバリガイやシロウリガイが発見された他、同地区の別の地層（2300万年〜約500万年）からタマキガイ、炭山地区の約3500万年前の地層からはカキ貝やシジミの仲間も見つかっている。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2011年8月24日

27日史跡見学会

博物館講座

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座と町内史跡見学会が

27日に行われる。午前9時に同博物館（町桜町、教育文化センター）に集合。豊北海岸のトーチカや乙部地区のチャシなどを見学する。参加無料。申し込みは前日までに同博物館（015・576・2009）へ。同日午後1時から同センターロビーでレコードコンサートも開かれる。

「十勝毎日新聞」 2011年8月24日

浦幌博物館が選べる講座

【浦幌】町立博物館（佐藤芳雄館長）は今月末まで、参加者自ら内容を選ぶ町内ミニ移動講座を開いている。「小グループや家族で文化財や自然を見学し、郷土の魅力に触れてみませんか？」と呼び掛けている。モデルコースとして「文化財巡り」「地質時代巡り」「草花・野鳥探索」の3分野にそれぞれ3コース（各2～3時間）を設定した。組み合わせも可能。可能な限り博物館職員が案内する。期日、時間などは事前に相談を。申し込み、問い合わせは同博物館（015・579・2009）へ。（大笹健郎）

モデルコースの詳細は次の通り。
▼文化財巡り①考古学文化財探訪コース（チャシや縄文、擦紋時代の遺跡などを見学）
②行政・産業遺産コース（浦幌町発祥の地、旧浦幌炭礦などを見学）
③戦争遺産コース（海岸に点在するトーチカなどを見学）

▼地質時代巡り①新第三紀化石採集コース（約1500万年前の地層からタマキガイなどの化石を採集）
②古第三紀化石採集コース（約4000万年前の地層から広葉樹や貝、甲殻類の化石を採集）
③恐竜絶滅の謎を探るコース（巨大いん石衝突の影響でできた、白亜紀と第三紀の間にあるK/T境界層を見学）

▼草花・野鳥探索①秋の草花探訪コース（草花の写真撮影）
②秋の紅葉巡りコース（地元の名勝を案内）
③渡り鳥探訪コース（ハクチョウ、ガン、カモ類などの渡り鳥飛来地を案内）

「文化財」「地質」「草花・野鳥」の3コース

「十勝毎日新聞」 2011年10月7日

「浦幌炭礦」跡地^など訪問

釧路博物館
講座の一行 案内看板が好評

【浦幌】釧路市立博物館主 館友の会と浦幌町立博物館が
催の「現場で学ぶ石炭基礎講
座」の一行39人が23日、町炭
山地区にある「浦幌炭礦」跡
地などを訪れた。1954年
の閉山後に道有林となり、自
然に埋もれつつある炭鉱街
と、現在も残る施設を見て回
った。

同講座の第13回「繋(つな
ぐ)」として浦幌を訪れ、元住
民らの話を聞く内容。同博物

館友の会と浦幌町立博物館が
共催した。講座のメンバー・
スタッフ29人と、釧路市で開
かれた全国石炭産業関係博物
館等研修交流会の出席者10人
も参加した。町立博物館の佐
藤芳雄館長が案内役を務め
た。

一行は初めに町コスミック
ホールで、同炭礦の歴史と人
々の生活をテーマにした写真
展を見学。写真の大半を提供



炭鉱アパート跡を訪れた
「現場で学ぶ石炭基礎講
座」の一行

した元炭鉱市街地住民の谷崎
由喜男さん(76)が帯広市在
住の説明を受けた。その
後、バスで炭山地区に向か
った。

い、森に埋もれ、屋上からも
木が生えたブロック造りのア
パートや、土砂に埋まった坑
道の通気口、釧路市音別町の
「尺別炭礦」とを結ぶトンネ
ル跡などを巡った。

参加した市民や研究者から
は、東十勝ロングトレイル活
動協議会(会長・萩原一利帯
広建設業協会会長)が谷崎さ
んの協力で設置した、往時の
写真の入った案内看板が好評
だった。

炭山地区出身で釧路市在住
の泉三枝子さん(72)は「ど
ても懐かしい。4年ぶりに来
たが、看板が設置されていて
見学しやすくなった」と話し
ていた。
(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2011年10月26日

7日からアイヌ 文様刺繍の講座

【浦幌】アイヌ文化伝承事
業「初心者アイヌ文様刺繍
(ししゅう)講座」(道アイヌ
協会浦幌支部、町立博物館、
町中央公民館主催、アイヌ文
化振興・研究推進機構後援)
が7、8、14、15日の各午後
1時から、町立博物館2階学
芸員室で開かれる。受講者を
募集している。

同機構アドバイザーの山本
みい子さん(幕別)を講師に、
手さげバック、ミニティッシ
ュ入れ、コースターを作る。
裁縫道具は各自持参。参加費
1000円(材料費)。申し
込み、問い合わせは同博物館
(0155・576・200
9)へ。

「十勝毎日新聞」 2011年11月2日

化石を見つけて喜ぶ児童

化石あったよ



浦幌で白人小児童が発掘

【浦幌】町炭山で10月27日、幕別・白人小学校（石川満校長、児童316人）の6年生が化石発掘を体験した。

理科の授業で6年生78人が参加。浦幌町立博物館の佐藤芳雄館長が講師を務めた。体験場所はかつて浦幌炭鑛があった場所で、児童はバスで現地に向かう間、車内で佐藤館長から同炭鑛について説明を受けた。現地では炭鑛関係者が住んでいたアパート跡や、病院跡などを見た後、川沿いで化石が含まれていそうな塊を一生懸命に探し、二枚貝などを見つけて喜んでた。巻き貝を見つけた鈴木勇輝君は「他に採った化石と一緒に大切にしたい」と話していた。（平田幸嗣）

「十勝毎日新聞」 2011年11月1日

2009)へ。

ヒグマの生態 山林で学ぼう

27日町立博物館

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座「ヒグマの生態を探る」が27日午前8時半から、同博物館（教育文化センターらぼる21内）発着で開かれる。ヒグマ研究で知られる日大生物資源学部の佐藤喜和専任講師の案内で炭山地区の山林でヒグマの生態を学ぶ。長靴やクマよけ鈴、野外活動に適した服装で。保険料100円が必要。雨天中止。定員は10人（先着順）。申し込みは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2011年11月25日

アイヌ木彫り 3、4日に教室

【浦幌】初心者向けのアイヌ文化伝統木彫り教室（道アイヌ協会浦幌支部、町立博物館、中央公民館主催、アイヌ文化振興・研究推進機構後援）が3、4日、町立博物館（町桜町、教育文化センターらぼろ21）2階の学芸員室で

開かれる。

札幌市在住の彫刻家荒木しげるさんを講師に迎え、コースターや糸巻きを作る。3日は午後1時、4日は午前9時から。彫刻刀（三角）を持参する。材料費500円が必ず。申し込みは2日までに町立博物館（015・576・2009）へ。問い合わせも同じ。

「十勝毎日新聞」 2011年12月1日

民族衣装など力作70点

アイヌ刺繍講座作品展

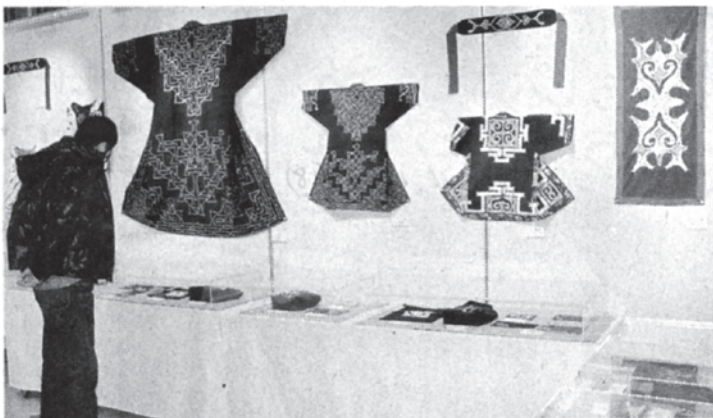
浦幌博物館

【浦幌】町立博物館の「アイヌ文様刺繍（ししゅう）講座」の講師・受講者の作品約70点を集めた展示会が、同館特別展示ホール（町桜町、教育文化センターらぼろ21内）

で開かれている。

同講座は道アイヌ協会浦幌

美しい刺繍作品が並ぶ展示会場



支部と同館、町中央公民館が主催し、アイヌ文化振興・研究推進機構の後援で取り組んでいる。

会場には、最近の同講座受講者が作った民族衣装や手提げ袋、ティッシュケースの力作を展示。また、講師で同機構アドバイザーの加藤シヅエさん（札幌）、山本みい子さん（幕別）の作品は熟練した技術による美しい文様が縫い込まれ、訪れた町民が熱心に見入っている。

入場無料。25日まで。午前10時～午後5時。12、19日は休館。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2011年12月7日

ヒグマの生態「現場」で実感



わな 調査捕獲用のわな。円筒の奥にある餌にヒグマが食いつくと、戸が閉まる。必要以上に傷つけないよう、暴れることができない構造になっている

浦幌の調査会 活動を公開

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座「ヒグマの生態を探る」が11月27日、町内で開かれた。浦幌を拠点に道東でフィールドワークに取り組む「浦幌ヒグマ調査会」（佐藤芳雄会長）の活動現場が公開された。

町内外から15人が参加。同調査会の研究を指導する佐藤喜和・日大生物資源科学部専任講師（農学博士）の案内で人里離れた炭山地区の沢筋に入り、クマの生

態について説明を受けながら、調査捕獲用のわなや、毛を採取するための仕掛けなどを見学した。クマが木の切り株のアリの巣を掘り返した跡や、ふんも観察できた。



誘引えさ

わなにヒグマをおびき寄せるため、周囲の木に仕掛けた餌袋と、回収する調査会の学生

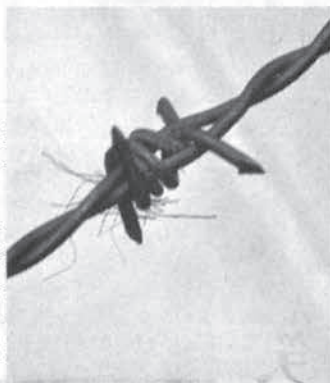
カメラ

赤外線センサー付きのカメラ。ヒグマの行動を撮影する



毛

仕掛けられた鉄条網に絡みついたヒグマの毛。DNAを分析し、生態調査に生かす



「十勝毎日新聞」 2011年12月1日

化石のレプリカ づくりなど2講座

町立博物館

【浦幌】町立博物館（町桜町、教育文化センターらぼろ21内）などは、冬休みの体験講座として「化石のレプリカづくり教室」「恐竜折り紙教室」を同館2階学芸員室で開く。

化石レプリカは12日午前10時からで、対象は小学生

20人（幼児は保護者同伴）。講師は足寄動物化石博物館の沢村寛館長。参加無料。タオルを持参する。

折り紙は14日午前10時から。折り紙サークル「パピロフレンズ」の三浦将弘代表が指導する。タオル、筆記用具を持参する。

申し込みは10日までに同館（015・576・2009）へ。問い合わせも同

「十勝毎日新聞」 2012年1月8日

浦幌町立博物館で あす特別企画

【浦幌】町立博物館（町桜町、教育文化センターらぼろ21内）は、23日午後8時から同館で特別企画「ナイト・ミュージアム」を行う。定員10人。小学生以下は保護者同伴。参加・入場無料。懐中電灯は持参する。申し込みは同館（015・576・2009）へ。午後7時半からはバイオリン演奏会も開かれる。

「十勝毎日新聞」 2011年12月22日

どきどき夜の博物館

親子連れ暗い展示室巡る

浦幌



アオサギの剥製に光を当てて観察する参加者

【浦幌】町立博物館（佐日、特別企画「ナイト・ミュージアム」が開かれ、家族連れ約20人が夜の博物館を楽しんだ。

ロビーに集合した参加者は、佐藤館長の後について照明と音響が消された展示室へ。アオサギのコロニーのジオラマや、餌を食べる様子の剥製に光を当て「アオサギってこんなに大きいんだ」と歓声を上げた。暗闇の中に浮かび上がったオオワシなどの猛禽（もうきん）類の剥製には「迫力がある」などの声も。

桜庭優那さん（浦幌小4年）は「真つ暗な中で見ると、いつもと違った雰囲気があって楽しい。見たい所に光を当て、じっくり観察できた」と話した。

ナイト・ミュージアムに先立ち、同ロビーでは町AET（英語指導助手）のニコル・リー・ワグナーさんのバイオリン演奏も披露された。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2011年12月27日

「アロデスムス」化石レプリカも仲間入り

アロデスムスの化石レプリカ（壁面）に見入る子供たち



常設展示室を改装

【浦幌】町立博物館（佐藤芳雄館長）が開館以来初めて取り組んだ常設展示室の改装が終わった。1991年に町内で発見された「アロデスムス」（アザラシに近い仲間）の化石レプリカが仲間入りした他、貝類についてはこれまで分散していた化石資料の展示場所を集約した。年表や映像資料も充実させ、来館者の好評を得ている。

浦幌町立博物館

年表や映像資料も充実

来館者に好評

同館は99年に開館。十勝川河口付近の遺跡から出土する石器・土器類の展示で知られるが、近年は町東部の白糠丘陵付近の化石類も充実。常設展示室は広さ378平方メートルで、今回は約500万円を投じ、昨年12月に一部ブースの増設など改装に取り組んだ。アロデスムスはアザラシやトドなどと同じ鯨脚（ききやく）類に分類される哺乳類で、約1600万年前から1000万年前に日本近海に生息していた。浦幌で見つかった化石は9）へ。（大笹健郎）

長さ2メートル、幅1・2メートルにほぼ全身の骨が含まれている貴重なもの。レプリカは足寄動物化石博物館（足寄町）が岩に埋もれた状態で製作、今回、浦幌の同館が譲り受け、地元での常設展示が実現した。

貝類は新種の「ウラホロシノカイヒバリガイ」（学名バシモディオルス・イノウエイ、2009年発見）など幅広い年代の化石が町内で見つかったっており、今回の改装ではこれらを地層や年代別に分類展示した。この他、巨大隕石（いんせき）の衝突の影響で堆積した「K/T境界層」（町茂川流布で露出）の模型展示では、新たに解説用の映像資料も。浦幌・十勝の自然史の年表も加え、視覚的に理解できるよう工夫した。

「十勝毎日新聞」 2012年1月13日

【浦幌】町博物館は14日午前10時から、同館で、冬休み体験教室「折り紙教室」を開催する。講師は帯広市在住のおりがみサークル「パピロフレンズ」代表三浦将弘さん。教室は約2時

浦幌町博物館

あす冬休み教室
折り紙しようよ

間で、恐竜などを制作する。タオルと筆記用具を持参する必要がある。家族での参加も可。無料。定員20人になり次第締め切る。申し込みは同館 ☎015・576・2009 へ。

「北海道新聞」 2012年1月13日

「辰」を題材に
鮮やかな年賀状
十勝孔版画の会
【浦幌】十勝孔版画の会
（千葉定晃代表）主催の「全
国孔版画年賀状展」が、町
教育文化センターらぼろ21
（町接町）1階特別展示ホ
ールで開かれている。今年
のえと「辰（たつ）」を題
材にした鮮やかな作品が

年賀状展とららほろ孔版画サークルの
メンバー。前列中央が千葉代表



並んでいる。31日まで。
千葉代表（幕別）が全国
の孔版画愛好グループに声
を掛け、毎年開いている。
今回は「ららほろ孔版画サ
ークル」（森ひろ子会長）

この他、千葉代表のもと
に全国から寄せられた21
6枚の年賀状もある。展示
は午前10時～午後5時（最
終日は午後3時まで）。

（大笹健郎）

をはじめ、全国14
グループの約10
0人から計150
点が集まった。
「怖い顔の辰
（龍）の表情を、
いかに年賀状らし
く明るく表現して
いるかが見どこ
ろ」と千葉代表。
森会長も「素晴らしい作品ばかり。
ぜひ見てほしい」と呼び掛けている。

「十勝毎日新聞」 2012年1月21日



土器に付着した炭素を収集する國木田助教（手前）。左は森先研究員

東大研究施設が土器調査

炭素分析、年代や食物解明へ

浦幌

【浦幌】東京大学付属北
海文化研究常呂実習施設
（北見市）の國木田助教
（環境学博士）が22日、町
立博物館を訪れ、同館収蔵
の土器に付着している炭素
などを調べた。

常呂の同施設では、オホ
ーツク文化を中心に北方圏
の考古学の研究に取り組ん
でいる。
國木田氏は昨春秋にも口
シア人研究者とともに来
町、同館で調査しており、

今回は国立文化財機構奈良
文化財研究所の森先一貴研
究員（環境学博士）が同行
した。
この日は町内の4遺跡から
出土した約8500～8
000年前（縄文早期）の
土器の付着物を採取。来年
度、炭素を分析し、土器が
使われていた年代を数百年
単位で割り出し、当時の人
々がどんな物を食べていた
かを詳細に調べる。
細石刃についても収蔵資
料を調べ、森先研究員は「刃
渡りが長く、国内で最もき
れいと言っているものもあ
る。貴重な資料が多い」と
話していた。
町内では十勝川河口域な
どに散在する遺跡群から多
数の土器、石器などが発掘
されているが、中には19
50年代に発掘されたもの
もあり、研究者からは「貴
重なものだけに、新しい技
術での調査も必要」との意
見もある。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2012年1月28日



牛乳パックで
ひな人形作り

浦幌小児童

【浦幌】町教育文化センターで開かれていた「ひな人形展」（3日まで、町立博物館主催）で2日、琴の体験教室と牛乳パックを利用したひな人形作りが行わ

れ、浦幌小児童
約20人が楽しん
だ。

町教委の子供の居場所づくり事業「オーラボ口広場」の一環で、地元の「琴代（ことよ）会」の田中克枝代表らが指導。同会場での琴教室は、2年連続。

の演奏に挑戦。「さくらさくら」などを習い合奏し、みんなで「うれしひなまつり」を歌った。

目を輝かせて取り組む姿に田中代表は「私たち自身が楽しいひとときを過ごすことができた」と話していた。

（大笹健郎）

〔大笹健郎〕

浦嶋 豊 厳寒の中、自然観察



厳しい寒さの中、打ち上げられた氷の横を歩く参加者

【浦幌・豊頃】浦幌町立博物館が主催する恒例の「厳寒体験教室」が4日、豊北海岸から十勝川河口周辺の雪原や砂浜で開かれた。「東十勝ロングトレイル」

ル活動協議会」（会長・萩原一利帯広建設業協会会長）の「雪原スキーと野鳥観察ツアー」一行も合流し、合わせて52人が自然観察を楽しんだ。

豊北海岸のトーチカ跡付近から、歩くスキーで雪原を進む組と、海岸を歩く組に分かれて約2時間、十勝川河口までのルートを往復した。

この日は晴天に恵まれたものの、出発時の気温が氷点下20度近く、同教室としては近年まれに見る寒さ。海からは毛嵐（けあらし）が立ち、無数の氷塊が打ち上げられていた。中には畳

一枚分あるものも。十勝川などから流れ出て打ち寄せられたものだという。

帯広市から参加した山陰正志さん(65)は「オジロワシなどを見ることができ良かった。打ち上げられた水も輝いてきれいだった」と話していた。(大笹健郎)

— 66 —

古代動物学ぶ機会に

浦幌 博物館でデスモスチルス展



【浦幌】町立博物館（佐藤芳雄館長）の特別展「デスモスチルス展」が同博物館のある町教育文化センターらぼろ21特別展示室で開かれている。

迫力あるデスモスチルスの全身模型

デスモスチルスは新生代第三紀（約2000万年前）に生息していた哺乳類で、臼歯は柱を重ねたような形をしているのが特徴。現在の研究でも食性や生態などに定説がなく、謎の多い動物とされている。

町内では1936年に厚内地区のオコッペ沢、65年に上厚内地区、77年に合流地区で化石が発見されており、同博物館が展示している。今回は足寄動物化石博物館の全身骨格復元模型を借りて展示している。

館内には、約1500万年前のアロデスミス（日本近海に生息していたアザラシに近い仲間）化石レプリカの展示もあり、浦幌で発見された2つの大型動物について学ぶことができる。

4月22日まで。入場無料。問い合わせは浦幌町立博物館（015・576・2009）へ。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2012年3月12日

27日ヒグマ講座

【浦幌】町立博物館（町桜町、教育文化センターらぼろ21内）は、27日午後6時半から同館で博物館講座「何故、ヒグマは里へ下り来るのか」を開く。

講師は日大生物資源科学部専任講師（農学博士）の佐藤喜和氏。佐藤氏は、日大・北大などの学生グループを中心に道東のヒグマを調査する「浦幌ヒグマ調査会」（佐藤芳雄会長）の活動を指導している。

近年、ヒグマと人間の生活圏が重なり、事故も発生していることから、ヒグマが活動を再開するこの時期に学ぶ。受講無料。申し込みは同館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2012年3月23日

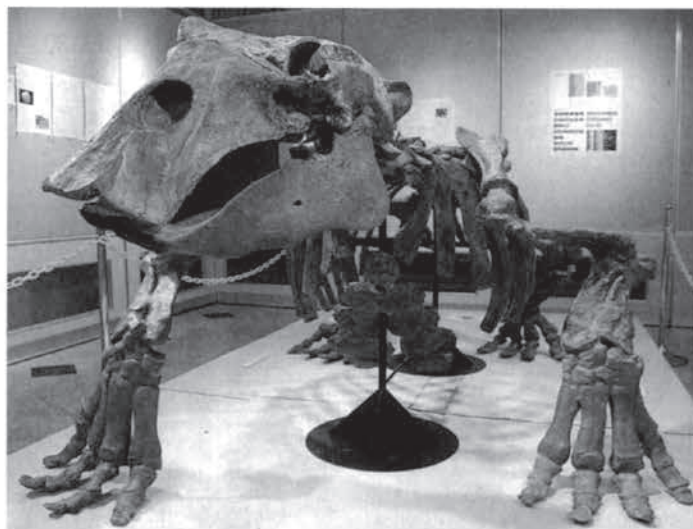
全身骨格と迫力

【浦幌】町立博物館は、町内で化石が3個発見されている2千万年前の哺乳類の特別展「デスモスチルス展」を開催中で、30日午前10時から、全身骨格の復元模型を貸し出した足寄動物化石博物館の沢村寛館長が特別講義をする。化石模擬発掘教室も開く。無料で当日参加が可能。デスモスチルスはいやカバに似た水辺に

浦幌で太古の「デスモスチルス展」

きょう講義と発掘教室

生息した草食動物と考えられ、町内の厚内オコッペ沢、上厚内、合流の3カ所で奥歯の化石が見つかっている。その生態は謎が多い。担当者は「全身骨格は迫力が違う。この機会にかつて地元で生息していた哺乳類に興味を持ってほしい」と話す。同展は5月13日まで。町立博物館は ☎ 015・576・2009。（土屋孝浩）

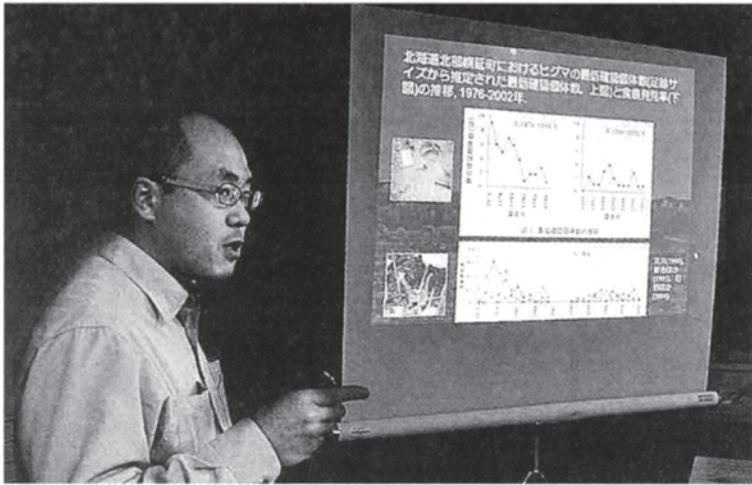


デスモスチルスの全身骨格（復元模型）

「北海道新聞」 2012年3月30日

木の実不作／人里にシカ／畑の人減る…

ヒグマ増加に複合要因



ヒグマが農地周辺に増えた要因を説明する佐藤博士

浦幌で佐藤日大講師が講演

【浦幌】道東のヒグマが人里近くに多くなったのは山林の木の実の不作の他、シカの死骸が人里近くにあることや畑に人が減って出沒しやすい環境になっていることなど複数の要因があることが、町内で生態調査する専門家の分析で分かった。シカ駆除の残滓(し)や放棄野菜など誘因物の除去も行い、クマにとつての農地周辺の魅力を下げることが必要と呼び掛けている。

駆除だけでは対策不十分

「浦幌ヒグマ調査会」(佐藤芳雄会長)の活動を指導する佐藤喜和・日大生物資源科学部専任講師(農学博士)が3月27日に町立博物館で開いた講演会で明らかにした。佐藤博士は、1997年に日大、北大の学生、研究者、地元住民と調査会を立ち上げ、浦幌を中心に道東のヒグマの生態を鋭

信器やDNA分析などで科学的に調査している。

浦幌町では昨年、例年の倍近い16頭のヒグマが駆除された。森林伐採や市街地の拡大が急激に進んだ1960～70年代以上のレベルで、人間とヒグマの生活圏が再び接近し、農業被害も拡大している。原因について佐藤博士は①人工的な針

葉樹林が増加し山の果実が減った②90年代以降、シカの増加で駆除残滓や事故死したシカの死骸が農地や道路付近にも残り、ヒグマの栄養源としてシカの利用割合が増えている③農地の機械化、無人化が進み、ヒグマが畑に出沒しやすくなった④ハンターの減少と高齢化などを挙げた。

一方、毎年駆除しているにもかかわらずヒグマが減らない理由について、ビートやトウモロコシが栽培され、シカも多くヒグマにとつて好条件の浦幌付近では、駆除したオスの勢力圏に毎年阿寒方面などから新しいオスが現れ、これらが地元のメスと子を作っているデータも示した。

こうしたデータから「駆除だけでは新しいクマを呼び寄せるだけ」として、電気柵や畑の周囲のやぶの刈り取りで出沒にくくすることなどの非致死的被害対策の重要性を呼び掛けた。

(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2012年4月4日

XII. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

○浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例

(平成11年9月20日条例第20号)

(目的)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2の規定に基づき、浦幌町教育文化センター（以下「センター」という。）の設置及び管理等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第2条 センターは、町民の教育文化の振興発展と学術の向上を図るため設置する。

(名称及び位置)

第3条 センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 浦幌町教育文化センター

位置 浦幌町字桜町16番地の1

(教育機関)

第4条 センター内に次の教育機関を置く。

(1) 浦幌町立図書館（以下「図書館」という。）

(2) 浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）

(図書館奉仕)

第5条 図書館は、おおむね次の各号に掲げる奉仕を行う。

(1) 図書、記録及びその他必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し、町民の利用に供すること。

(2) 図書館資料の目録を整備すること。

(3) 図書館資料について、その利用のための相談に応ずること。

(4) 読書会及び研修会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。

(5) 時事等に関する情報及び参考資料を紹介し及び提供すること。

(6) 学校、博物館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(図書館の職員)

第6条 図書館に館長及び司書、その他必要な職員を置く。

(図書館協議会)

第7条 図書館に浦幌町立図書館協議会（以下「図書館協議会」という。）を置く。

2 図書館協議会は、図書館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。

3 図書館協議会の委員（以下「委員」という。）は、10名以内とし、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから教育委員会が委嘱する。

4 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(博物館の事業)

第8条 博物館は、おおむね次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本及びその他必要な資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示すること。
- (2) 博物館資料を博物館外で展示すること。
- (3) 博物館資料の利用に関し必要な説明及び指導等を行い、又は研究室等を利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究及び保管、展示等の技術的研究を行うこと。
- (5) 博物館資料に関する案内書及び解説書等を作成し、頒布を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する講演会及び研究会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。
- (7) 浦幌町にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書及び目録を作成し、町民の文化財の利用の便を図ること。
- (8) 学校、図書館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(博物館の職員)

第9条 博物館に館長及び学芸員、その他必要な職員を置く。

(博物館協議会)

第10条 博物館に浦幌町立博物館協議会（以下「博物館協議会」という。）を置く。

2 博物館協議会は、博物館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。

3 博物館協議会の委員の定数及び任期等については、第7条第3項から第5項の規定を準用する。

(報酬及び費用弁償)

第11条 委員が会議等に出席したとき又は公務により旅行したときは、非常勤特別職の職員の報酬等に関する条例（昭和31年浦幌町条例第19号）に定めるその他の委員会、協議会に相当する報酬及び費用弁償を支給する。

(利用の制限)

第12条 館長は、次の各号の一に該当する場合は、利用を禁止し、制限し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) 建物又はその設備を滅失し、損傷するおそれがあると認められるとき。
- (3) 集団的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織及びその構成員の利益になると認められるとき。
- (4) その他管理運営上支障があると認めたとき。

(損害賠償の義務)

第13条 利用者が建物及び設備又は図書館資料若しくは博物館資料をき損、汚損又は滅失したときは、教育委員会が定める損害額を賠償しなければならない。

(規則への委任)

第14条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は教育委員会規則で定める。

附 則

1 この条例は、平成11年12月1日から施行する。

2 浦幌町郷土博物館設置条例（昭和44年浦幌町条例第21号）は、廃止する。

○浦幌町立博物館の管理、運営等に関する教育委員会規則

(平成11年12月1日教育委員会規則第4号)

(目的)

第1条 この教育委員会規則は、浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例（平成11年浦幌町条例第20号。以下「条例」という。）第4条第2号に規定する浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の管理、運営等について必要な事項を定めることを目的とする。

(博物館協議会)

第2条 浦幌町立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織等については、浦幌町立図書館の管理、運営等に関する教育委員会規則（平成11年浦幌町教育委員会規則第3号）第2条の規定を準用する。

(開館時間)

第3条 常設展示室の開館時間は、午前10時から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときはその時間を臨時に変更することができる。

(休館日)

第4条 常設展示室の休館日は次のとおりとする。

- (1) 月曜日（月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「国民の休日」という。）の場合は、その翌日）
- (2) 国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く
- (3) 年末年始
- (4) その他館長が必要と認めた日

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときは休館日を臨時に変更することができる。

(常設展示室利用者の遵守事項)

第5条 利用者は、この教育委員会規則及び館長の指示に従うほか、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 許可なく博物館資料を撮影し、又は複製しないこと。
- (2) 許可なく展示資料に手を触れないこと（特に指定した展示品を除く。）。
- (3) 音読、高談その他騒がしい行為をしないこと。
- (4) 飲食又は喫煙をしないこと。
- (5) 展示品の近くでインク、墨汁等を使用しないこと。

(博物館資料の寄贈等)

第6条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

2 博物館に博物館資料を寄贈又は寄託しようとする者は、浦幌町財務規則（昭和60年浦幌町規則第12号）第158条の規定にかかわらず館長に博物館資料寄贈（寄託）申込書（別記様式第1号）を提出し、承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の提出があったときは遅滞なくその取扱いについて決定し、寄贈を受ける場合はその資料と引換えに博物館資料受領証（別記様式第2号）を寄贈者に交付しなければならない。また、寄託した者に対しては博物館資料受託証（別記様式第3号）を交付するものとする。

4 寄贈された博物館資料は理由のいかんを問わず返還しない。

(寄託博物館資料の返還)

第7条 寄託博物館資料は、博物館資料受託証と引換えに返還しなければならない。

(寄託博物館資料の損失責任)

第8条 博物館は、寄託された博物館資料が滅失若しくは紛失又は破損してもその責は負わないものとする。

(館外利用)

第9条 館長は、教育長の承認を得て、博物館の所蔵する博物館資料を他の博物館その他館長が適当と認めた者に館外貸出しをすることができる。ただし、寄託を受けた博物館資料については、原則として貸し出さないものとする。

(貸し出し期間)

第10条 前条に規定した博物館資料の貸し出し期間は、90日以内とする。

2 前項の規定にかかわらず、特に必要と認めたときは、博物館資料の貸し出し期間を延長することができる。

3 館長は、必要があるときは、貸し出し期間中であっても、博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しを受けた博物館資料の遵守義務)

第11条 博物館資料の貸出しを受けた者は、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所以外で利用してはならない。

2 貸出しの許可を受けた者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 当該博物館資料が滅失し、又はき損したときは、当該博物館資料を原状に回復し、及びそれによって生じた損害を賠償すること。
- (2) 当該博物館資料等の運搬及び維持管理に要する経費を負担すること。
- (3) 承認を受けた利用目的又は利用の場所を変更しないこと。
- (4) 貸出し満了期間までに指定された場所に返納すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか館長が指示する事項。

(博物館資料の特別利用)

第12条 博物館資料を学術上の研究その他の目的のため撮影、複写、模写又は模造（以下「特別利用」という。）を行おうとする者は、あらかじめ、特別利用申請書（別記様式第4号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を求めなければならない。

2 前項の規定により特別利用を承認したときは、特別利用承認書（別記様式第5号）を交付するものとする。

3 前項の場合において、当該博物館資料が寄託を受けたものであるときは、文書により寄託者の承諾を得なければならない。

4 特別利用は、館長の指示に従って行わなければならない。

(模写品等の刊行等の承認)

第13条 博物館資料を模写し、模造し、撮影し、又は複写したもの（以下「模写品等」という。）を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、模写品等使用申請書（別記様式第6号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を受けなければならない。

2 館長は、模写品等の使用を承認したときは、模写品等使用承認書（別記様式第7号）を交付するものとする。

(委任)

第14条 この教育委員会規則に定めるもののほか必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この教育委員会規則は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 浦幌町郷土博物館設置条例施行規則（昭和44年浦幌町教育委員会規則第1号）は、廃止する。
- 3 旧教育委員会規則により現に、収集、保管及び館外貸出し等されている博物館資料は、この教育委員会規則に基づき収集、保管及び貸出し等されているものとみなす。

別記様式第1号

博物館資料寄贈（寄託）申込書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
住所 _____		
氏名 _____ 印		
次のように、博物館資料を寄贈（寄託）したいので申し込みます。		
記		
1 寄贈、寄託資料		
資 料 名	数 量	摘 要
2 寄託の場合、寄託期間 年 月 日 から 年 月 日		

別記様式第2号

博 物 館 資 料 受 領 証		
年 月 日		
(申 込 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
寄贈の申込みのあった次の資料を受領します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、 学術資料として有効に活用させていただきます。		
記		
1 寄贈資料		
資 料 名	数 量	摘 要

別記様式第3号

博 物 館 資 料 受 託 証		
年 月 日		
(申 込 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
寄託の申込みのあった次の資料を受託します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、 学術資料として有効に活用させていただきます。		
記		
1 受託資料		
資 料 名	数 量	摘 要
2 受託期間 年 月 日 から 年 月 日		
※寄託資料の返還は、この受託証と引換えに行います。		

別記様式第4号

特 別 利 用 申 請 書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
申請者 住所 _____		
氏名 _____ 印		
次のように浦幌町立博物館資料を特別利用したいので、申請します。		
記		
利用目的		
利用期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (日間)	
利用方法	閲覧・複写・模造・撮影・複写・その他 ()	
利 用 資 料 名	点 数	備 考

XII. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

別記様式第5号

特 別 利 用 承 認 書		
年 月 日		
(申 請 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料の特別利用を、次のように承認します。		
記		
利用目的		
利用期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (日間)	
利用方法	閲覧・模写・模造・撮影・複写・その他 ()	
利 用 資 料 名	点数	備 考
注意 1 利用時間は、午前10時から午後5時までとする。 2 利用に当たっては、係員の指示に従うこと。 3 前項に違反したときは、承認を取り消すことがある。		

別記様式第6号

受付番号		第 号
模 写 品 等 使 用 申 請 書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
申請者 住所 (法人又は団体にあつては主たる事務所所在地)		
氏名 (法人又は団体にあつては名称及び代表者氏名) 印		
電話		
次のように浦幌町立博物館資料の模写等をしたので、申請します。		
記		
使 用 目 的		
模 写 等 区 分	模写・模造・撮影・複写	
製 作 等 区 分	刊行・複製・研究発表等	
作 品 名		
製 作 数		
予 定 価 格	有料 (円) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模 写 等 資 料 名		
注) 刊行企画書、複製仕様書、研究発表会の開催要項等の参考資料があれば添付して下さい。		

別記様式第7号

承認番号		第 号
模 写 品 等 使 用 承 認 書		
年 月 日		
(申 請 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料模写等を、次のように承認します。		
記		
使 用 目 的		
模 写 等 区 分	模写・模造・撮影・複写	
製 作 等 区 分	刊行・複製・研究発表等	
作 品 名		
製 作 数		
予 定 価 格	有料 (円) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模 写 等 資 料 名		
注) 1 上記使用目的以外に使用しないこと。 2 使用に際しては、浦幌町立博物館所蔵の旨を明記すること。		

○浦幌町立博物館処務規程

(平成11年12月1日教育委員会規程第2号)

改正 平成13年6月29日教委訓令第5号
平成15年6月30日教委訓令第3号

(目的)

第1条 この教育委員会規程は、浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の機構と事務処理上必要な事項を定めることを目的とする。

(職員の職)

第2条 博物館に館長及び学芸員を置き、必要に応じて係長、主任、主査、主事その他の職員及び学芸員補を置くことができる。

(任免)

第3条 前条に規定された博物館の職員の任免は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第34条の規定に基づき、教育長の推薦により、教育委員会が行う。

(服務)

第4条 博物館の職員の服務は、別に定めるものを除き、浦幌町教育委員会事務局職員の例による。

(職務の分掌)

第5条 館長は、上司の命を受けて、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第4条第4項に規定する職務を行う。

3 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

4 主任は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。

5 主査は、上司の命を受け、担当事務を処理する。

6 主事及びその他の職員は、上司の命を受け、事務をつかさどる。

7 学芸員補は、法第4条第6項に規定する職務を行う。

(係の設置)

第6条 博物館に博物館係を置く。

(事務の分掌)

第7条 博物館係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 公印の管守に関すること。
- (2) 人事、経理、文書その他庶務に関すること。
- (3) 浦幌町立博物館協議会に関すること。
- (4) 予算及び決算に関すること。
- (5) 物品の出納及び管理に関すること。
- (6) 施設設備の管理に関すること。
- (7) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (8) 博物館資料の説明及び助言等に関すること。
- (9) 博物館資料の調査研究に関すること。

- (10) 博物館資料の案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- (11) 博物館事業の広報に関すること。
- (12) 博物館事業の企画運営に関すること。
- (13) その他博物館運営及び博物館資料に関する専門的事項に関すること。

第8条 削除

第9条 削除

(専決)

第10条 館長は、他に定めのあるものを除き、次の各号に掲げる事務について専決することができる。

- (1) 施設設備の使用及び管守に関すること。
- (2) 専用公印の管守に関すること。
- (3) 関係団体の育成及び指導等に関すること。
- (4) 博物館の行う恒例又は軽易な事業の企画運営に関すること。
- (5) 前各号に準ずる軽易な事務処理に関すること。

第11条 前条各号に掲げる事項であっても、特に重要な事項又は取扱上異例に属する事項若しくは疑義のある事項の処理については、教育長の承認を受けて処理しなければならない。

(事業計画及び事業実績報告等)

第12条 館長は、当該年度に実施すべき年間の事業計画を教育長が別に定める日までに届け出るものとする。

第13条 館長は、当該年度に実施された年間の事業実績報告等を教育長が別に定める日までに報告しなければならない。

(帳簿)

第14条 博物館には、次の各号に掲げる簿冊を備え付け、常に適正に記帳、整備しなければならない。

- (1) 博物館日誌（別記様式第1号）
- (2) 備品台帳（収蔵されている博物館資料を除く。）
- (3) 図書台帳
- (4) 旅行命令簿
- (5) 経理簿
- (6) 会議日誌
- (7) 出勤簿
- (8) 公文書綴り
- (9) 沿革史
- (10) 博物館資料寄贈申込台帳
- (11) 博物館資料寄託申込台帳
- (12) 博物館資料受入台帳（別記様式第2号）
- (13) その他館長が必要と認めた簿冊

(合議)

第15条 館長は、事務執行上異例又は重要と認められるものは、教育委員会事務局の関係課長等と合議しなければならない。

(公印)

第16条 博物館の文書に用いる印章（以下「公印」という。）は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 浦幌町立博物館協議会長の印
 - (2) 浦幌町立博物館の印
 - (3) 浦幌町立博物館長の印
- 2 前項の公印は、館長が保管する。
 - 3 公印の規格、定位置及び定数は、別表のとおりとする。
 - 4 公印の刻字面の様式は、別記様式第3号のとおりとする。

(文書の記号)

第16条の2 文書の記号は、教育委員会名及び博物館名をもって構成する。

- 2 前項の記号は、次のとおりとする。

浦博物館

(博物館資料の受入れ)

第17条 博物館で受け入れた資料は、博物館資料受入台帳に所定の事項を記入し、その資料の由来等を調査後、速やかに博物館資料記録票を作成しなければならない。

第18条 前条の博物館資料には、その由来等を明らかにするために博物館資料整理カード（別記様式第4号）を貼付しなければならない。ただし、それによりがたい場合は、その他適当な方法でその由来等を明らかにしなければならない。

(準用規定)

第19条 この教育委員会規程に定めるもののほか、必要な事項は浦幌町教育委員会事務局処務規程（平成13年浦幌町教育委員会訓令第2号）を準用する。

(読替え規定)

第20条 浦幌町教育委員会事務局処務規程を準用する場合、「課長」とあるのを「館長」と読み替えるものとする。

附 則

- 1 この教育委員会規程は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 この教育委員会規程施行の際に現に使用中の別記様式は、当分の間、従前のものを使用することを妨げない。

附 則（平成13年6月29日教委訓令第5号）

この教育委員会訓令は、公布の日から施行する。

附 則（平成15年6月30日教委訓令第3号）

この教育委員会規程は、平成15年7月1日から施行する。

別表（第16条第3項関係）

種 別	規 格	定数	定 位 置	個数	摘 要
浦幌町立博物館協議会長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館の印	30ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）

別記様式第1号

決裁	館長	回	議	係	合	議
年 月 日 () 天 候						
寄贈等	博物館資料の寄贈		寄贈者	住所	品名数量等	
	博物館資料の寄託		寄託者	住所	品名数量等	
	博物館資料の返還		受領者	住所	品名数量等	
事業等	事業名			～	特記事項	
	事業名			～	特記事項	
来館者	所属氏名			所属氏名		
	所属氏名			所属氏名		
団体入館者	団体名			人数	特記事項	
	団体名			人数	特記事項	
	団体名			人数	特記事項	
職員動静	氏名	旅行先	目的			
備考						

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第2号

要 摘									
収蔵番号									
分類番号									
寄贈者等住所・氏名									
受入方法									
受入年月日									
品名									
受入番号									

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第3号

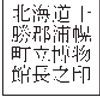
1 浦幌町立博物館協議会長の印



2 浦幌町立博物館の印



3 浦幌町立博物館長の印



別記様式第4号

○	
浦幌町立博物館	
受入番号	—
収蔵番号	—
分類番号	
受入年月日	年 月 日
資料名	
寄贈者等名	
寄贈者等住所	
受入方法	寄贈・採集・発掘・寄託 製作・購入・複写・その他
摘要	

注) 1 年号は西暦で記載すること。
2 「受入方法」は、適当なものを○で囲むこと。

XIII. 平成23年度予算

10款 教育費 5項 社会教育費 3目 博物館費

(単位:千円)

当 初 予算額	補正額	計	節		説 明
			区 分	金 額	
1,866	5,000	6,866	1 報 酬	25	委員報酬 25
			8 報償費	176	報償金 176
			9 旅 費	92	費用弁償 1
					普通旅費 91
			11 需用費	1,168	消耗品費 500
					印刷製本費 590
					光熱水費 18
					修繕料 50
					賄材料費 10
			12 役務費	94	通信運搬費 84
					手数料 10
			15 工事請負費	5,000	工事請負費 5,000
			16 原材料費	10	原材料費 10
			18 備品購入費	273	備品購入費 273
			19 負担金、補助及び交付金	28	北海道博物館協会負担金 15
					帯広百年記念館運営連絡協議会負担金 3
					道東3管内博物館施設等連絡協議会負担金 5
					研修会参加負担金 5

浦幌町立博物館年報 第13号

発行日 2012年11月30日

編集 佐藤芳雄

発行所 浦幌町立博物館
〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地1
電話 015-576-2009 FAX. 015-576-2452

印刷所 大同出版紙業株式会社
〒080-0017 北海道帯広市西7条南6丁目2番地